

平成12年度

# 業 務 報 告 書

JICA LIBRARY



1188622 [3]

平成13年7月

国 際 協 力 事 業 団  
九 州 国 際 セ ン タ ー

九 州 七

J R

01-002



## はじめに

国際協力事業団（JICA）は、開発途上にある海外の地域（開発途上地域）の経済及び社会の発展に寄与し、国際協力の促進に資することを目的に昭和49年（1974年）8月1日に「国際協力事業団法」に基づいて設立されました。

国際協力事業団は設立以来「人づくりへの貢献」「自助努力への支援」「地域社会に根ざした協力」を旗印に、開発途上地域の自立的かつ持続的な発展のための技術協力事業を主に実施してきました。技術協力事業は、研修員の受入、専門家の派遣、青年海外協力隊員等の派遣、技術協力に必要なとされる種々の資材や機材の供与、また開発計画の策定に協力する開発調査等です。これら技術協力事業に加え、基礎生活分野の整備のための無償資金協力の調査・実施促進や日系社会活性化のための移住者・日系人支援、途上国における災害発生時に迅速に出動する災害緊急援助等の幅広い事業を実施しています。

九州国際センター（KIC）は、平成元年（1989年）10月に北九州市八幡東区平野地区に設置され事業を開始しました。平成8年度には、昭和56年度（1981年）4月に発足した国際協力事業団九州支部と九州国際センターとを統合し、センターの機能強化を図り、九州7県全域における事業団の総合窓口機関としての機能を果たしています。さらに、近年は、教育現場への「総合的学習の導入」にともない、国際理解教育（開発教育）支援事業、また、開発途上国からの多様化する要請に対応するため、地方自治体・NGOとの連携を図り、地方の人的・知的資源を活用しつつ市民参加型国際協力の推進に努めており、国際協力事業の地方展開拠点としての役割が増してきました。

全国的に国際協力の地方展開が進展しつつありますが、ここ九州は歴史的にも地理的にも国際交易や国際交流が盛んであり、北九州市をはじめとする九州各地の方々のご協力により研修員のホームビジットや各種の交流も活発に行われております。当センターは、引き続き九州全県への国際協力の拠点としての役割を果たしていく所存ですので、今後ともさらなるご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

平成13年6月

国際協力事業団  
九州国際センター  
所長 伊坂 潔



1188622 [3]

# 平成12年度 業務報告書目次

はじめに

I. 2000年度を振り返って	1
II. 事業の実施	7
1. 技術研修員受入事業	7
1-1. 受入事業実績概要	7
1-1-1. 平成12年度研修員受入実績(総表)	8
1-1-2. 平成12年度県別研修員受入状況	9
1-1-3. 平成12年度国別・形態別研修員受入実績表	10
1-1-4. 平成12年度受入研修員男女比・年齢構成表	12
1-1-5. 平成12年度分野別研修員受入実績表	13
1-1-6. 累計実績(平成元年から平成12年度まで)	14
1-1-7. 平成12年度研修コース別実績表	15
1-1-8. 研修用主要機材	20
1-2. ブリーフィング・オリエンテーション	21
1-2-1. ブリーフィング	21
1-2-2. オリエンテーション	21
1-3. 日本語研修	25
1-3-1. 実施形態	25
1-3-2. 平成12年度実績	26
1-4. 調査団派遣	27
2. 青年招へい事業	28
3. 青年海外協力隊及びシニア海外ボランティア	30
3-1. 青年海外協力隊	30
3-2. シニア海外ボランティア	33
4. 日系社会支援事業	34
4-1. 日系研修員受入	35
4-2. 日系社会青年ボランティア	35
4-3. 日系社会シニアボランティア	36
4-4. 海外移住家族会総会	37
5. 技術協力専門家派遣事業	37
6. 開発パートナー事業等	38
6-1. 開発パートナー	38
6-2. 小規模開発パートナー	38

7. 開発協力事業	39
Ⅲ. 事業実施基盤強化	41
1. 広報活動	41
1-1. 広報関連事業	41
1-2. 開発教育・国際理解教育の推進	43
1-3. 平成12年度所長講演等	46
2. 図書室の利用状況	47
3. 研修支援	52
3-1. 研修員の福利厚生	52
3-1-1. 研修員の健康管理	52
3-1-2. 研修員の交流事業	54
3-2. 英語研修	57
Ⅳ. 九州国際センターの施設運営と予算	59
1. センター施設の概要	59
2. 組織と業務分掌	60
3. 宿泊利用実績	61
4. 平成12年度収支予算実績	62
5. 九州国際センター付近略図及び交通手段	63

以上

# I. 2000年度を振り返って



## 1. 2000年度を振り返って

近年、国際協力事業の据野を拡大していくため、国際協力に対する「市民参加の促進」「地域との連携強化」が求められています。九州国際センターは地域連携型の研修員受入を始めとして地方発信の国際協力の展開に力を注いできました。このような観点から2000年度（平成12年度）における当センターの新たな事業展開を振り返ってみると、概要は以下のとおりです。

### 1. 地域連携型研修員受入

九州国際センターは従来から地域の特性を生かした研修を企画・実施してきました。当センターにおいては、北九州市の鉄鋼技術をベースにした「産業生産技術分野」の研修コース、産業公害を克服した経験・ノウハウをベースとする「環境技術分野」の研修コース、保健医療分野で経験と技術を有する熊本における「保健医療分野」の研修コース等を実施しています。さらに、地域連携型研修コースとして、大分県の「1村1品運動」に基づいた研修コース「地域振興政策セミナー」（平成10年度開始）、福岡市の廃棄物埋立技術に基づいた「マレーシア廃棄物埋立技術」（平成11年度開始）、鹿児島県のNGOであるカラモジアによる「循環システムによる環境保全型持続的農林業セミナー」（平成11年度開始）等、地域が保有している特徴のある経験・技術を活用した研



水俣市のゴミ分別収集の体験学習

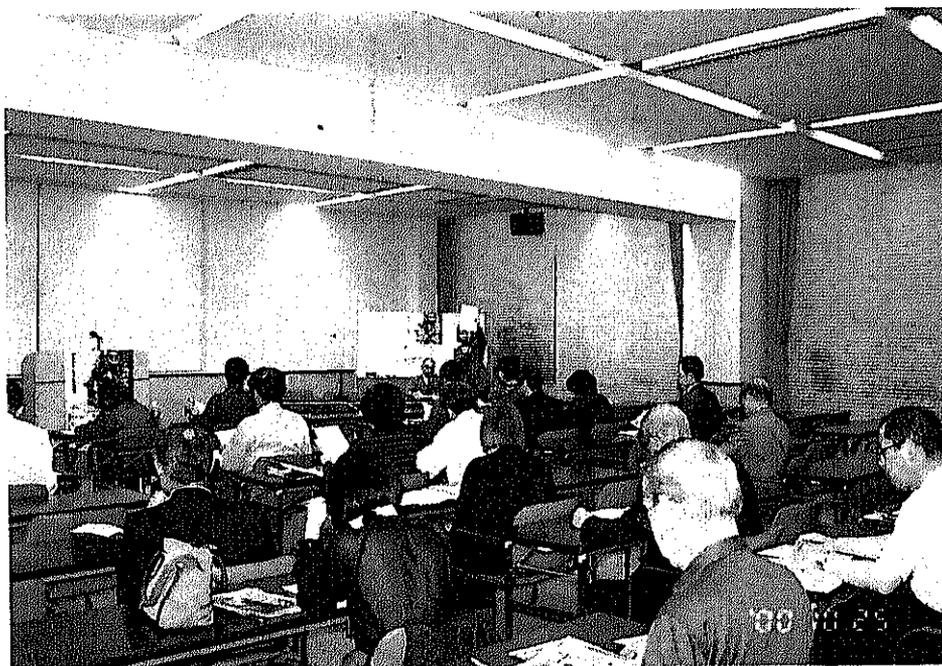
修コースを九州各地で実施しています。

平成12年度においては地域特性を生かした研修コースとして「地方自治体による環境再生・保全行政（水俣病の経験と教訓）」コースを開始しました。この研修コースは、高度成長期における負の遺産である公害病を市民と行政が一体となって克服し、地域の環境再生に取り組んでいる経験・ノウハウを開発途上国の環境対策に活かしてもらうことを目的にしています。本研修にはインドネシア、タイ、マレーシア、中国から9名が参加し、研修期間中一般市民との対話、交流を行うなど地域に密着した研修を実施しました。

## 2. ボランティア事業の拡充

平成12年度末現在、九州地域から316名の青年海外協力隊員が、世界各地に派遣され、活躍しています。当センターは、青年海外協力隊に参加しやすい環境を整えるため、各自治体等からの現職参加を推進しております。平成12年度においては、7月に熊本県芦北郡芦北町、9月に熊本県水俣市及び平成13年3月に福岡県宮田町の1市2町において派遣条例が制定された結果、平成12年度末現在24市町村において派遣条例が制定され、青年海外協力隊員として7名が現職派遣されています。

平成2年度から始まったシニア海外ボランティア事業は近年大幅に拡充され、平成12年度には新規323名を派遣する規模となりました。それに伴い、平



シニア海外ボランティア募集説明会（第1回一般公募）

成12年から、各地でシニア海外ボランティアの公募のための説明会を行うなど、シニア世代に対するボランティア活動参加への広報活動を強化しました。

この結果、シニアボランティア活動について、マスコミで取り上げられる機会も多く、福岡県からホンデュラスへ派遣されコンピュータシステムの改善に協力した活動や佐賀県からパラグアイへ派遣され木工技術の向上に協力した活動等のボランティア活動が紹介されました。

平成12年度末現在、九州地区におけるシニアボランティア派遣者数は20人を数え、多くのシニア世代が世界各地で活躍しています。

### **3. 小規模開発パートナー事業**

平成11年度に開始した開発パートナー事業に加え、平成12年度においては、NGO・自治体・大学機関との連携による国際協力事業として「小規模開発パートナー」事業が開始されました。この事業は、比較的小規模かつ草の根的国際協力活動と連携して実施する事業で、今後、各地域のNGO等との連携強化が期待されます。

九州においては、平成12年度、小規模パートナー事業として、1) 鹿児島県のNGO「じゃっど」による「ラオス鉤虫対策プロジェクト」、2) 北九州市水道局による「カンボディア、プノンペン市配水システム整備プロジェクト」、3) 福岡県のNGO「ペシャワール会」による「パキスタン北西辺境州における感染症に関するプライマリーヘルスワーカー教育事業」が採択されました。

### **4. 広報及び開発教育**

地域の国際化を促進し、国際協力を長い目で育て上げていくためには、若い世代に、国際協力の経験を受け継ぎ、開発途上国の実情を理解してもらうことが重要です。

平成12年度においては、従来に増して開発教育支援事業の充実に努めてきました。福岡県では、留学生と協力隊OB・OGが講師になる「教室から世界をのぞこう」プログラムが3年目を迎え、実施回数も161回(127校)を数えるにいたりました。また、鹿児島県では「留学生と協力隊OBが先生」プログラムが41回実施され、それぞれの県で小中学校の国際理解教育の推進に貢献しました。他方、北九州市を中心にJICA研修員の地域との交流活動として小中学校に研修員を19回派遣しました。さらに、サーモンキャンペーン

として協力隊OB・OG及びJICA職員等を九州各地に27回(27校)派遣し、教育の現場における国際理解教育の一層の発展に努めました。



折尾小学校での国際交流会「七夕飾りを楽しむ研修員と小学生」

## 5. JICAインターンシップ

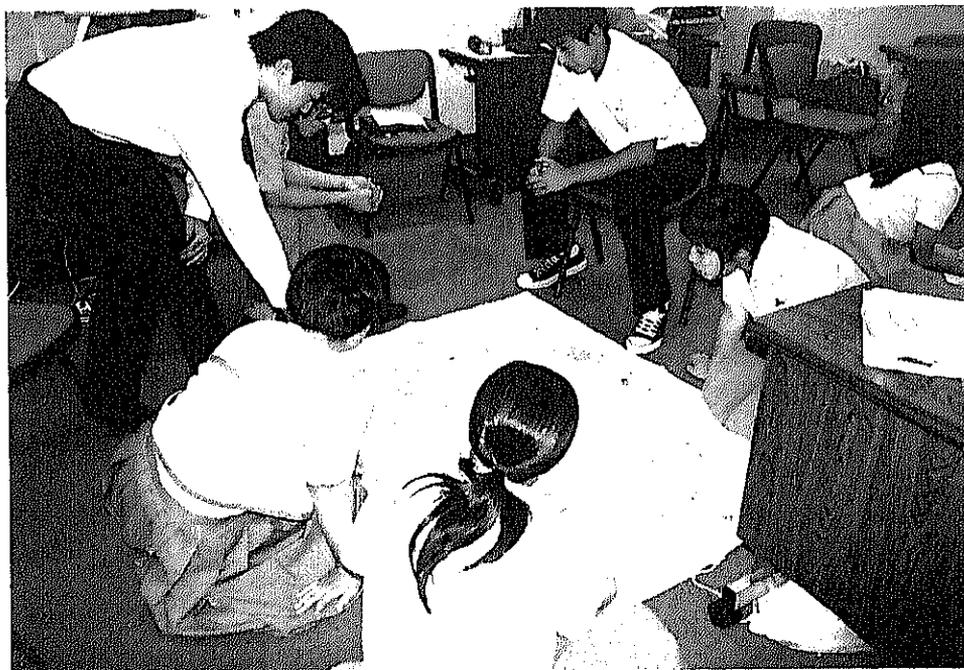
平成12年度、初めての試みとしてインターンシッププログラムを実施し、福岡大学大学院生を当センターに受入れました。JICAインターンシッププログラムとは国際協力、開発援助に関わりの深い研究を行い、将来同じ分野で活躍することを希望する大学院生が、実務実習を行うプログラムです。このプログラムに参加した大学院生は次のような感想を述べています。

“7月から2カ月半の実習期間中に、KICが行う「JICA研修員の国際交流計画」への参加、「高校生国際協力実体験プログラム」の計画・実施を経験させていただきました。それ以外にも「ユース・フォーラム」や「教室から世界をのぞこう」等のイベントやセミナーにも参加することができ、これらを通じて実施する側の視点から国際協力や国際理解について考えることができました。

そして、子供たちが途上国からの研修員や留学生と楽しく交流している姿を見たとき、国際協力理解のための活動もJICAの大切な仕事の一つなのだと実感しました。

また、私にとってインターンシップは多くの魅力ある方々との出会いでもあり、大学院での学習では得ることのできないインターンならではの収穫が得る

ことができ、国際協力に対する視野が広がりました。”



高校生ODA実体験「貧困はどこからのワークショップ」



## Ⅱ. 事業の実施



## Ⅱ. 事業の実施

### 1. 技術研修員受入事業

#### 1-1. 受入事業実績概要

平成12年度における集団研修は21コース、一般特設は18コースで、計39コースとなり、前年度に比べると1コース減となりました。また、集団コース・一般特設コース以外に集団型研修として国別特設コース（日墨交流を含む）、10コースを実施しました。平成12年度の研修員受入の合計は、個別研修員を含め、553名となりました。

その内訳は、集団研修及び一般特設コース（39コース）の受入372名、国別特設コース（10コース）の受入103名、その他個別研修員受入78名でした。

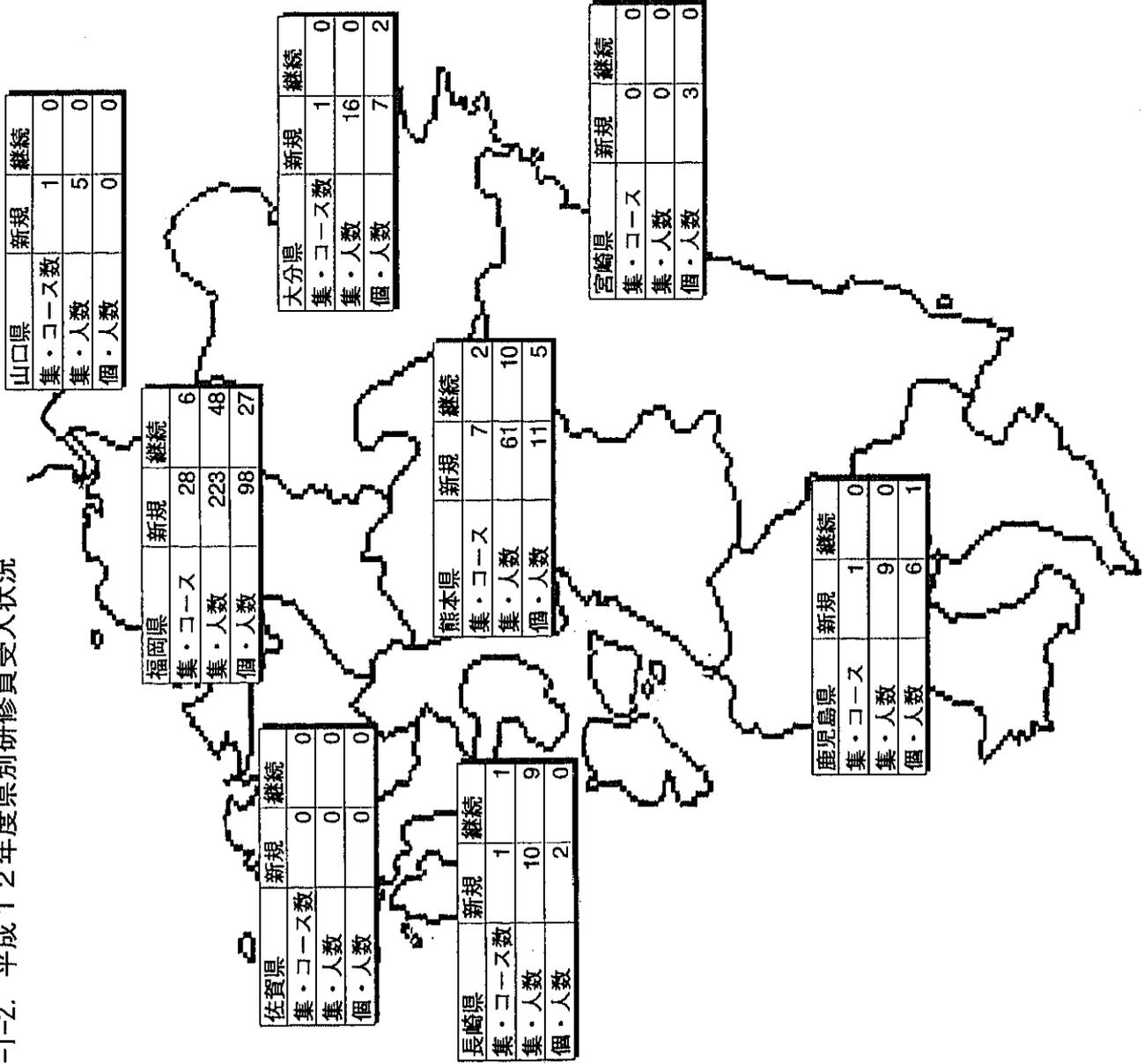
その他の個別研修のうち、カウンターパート研修は、JICAが開発途上国で実施している技術協力専門家の現地における技術移転の相手方を受入れ、研修を行うもので、平成12年度は58名のカウンターパート研修を実施しました。

なお、平成12年度から開発途上国における将来のリーダー育成を図るため、原則、修士を対象とした2年間、大学機関に受入れる長期研修が開始され、当センターにおいては、3名を九州大学、立命館アジア太平洋大学に受け入れました。

1-1-1. 平成12年度研修員受入実績(総表)

区分	新規	継続	計	研修コース別内訳
1. 集団研修コース KIC所管	21コース 162人	8コース 56人	218人	<p>歯学 11人 大気汚染モニタリング管理 8人</p> <p>産業保健指標改善対策 8人 石炭資源開発・利用 7人</p> <p>産業界環境対策 7人 病院経営・財務管理 8人</p> <p>設備診断技術 8人 生産性向上技術 6人</p> <p>自動制御(基礎) 10人 薬剤耐性病原体の実験室診断 8人</p> <p>消火技術 8人 生産設備の安全管理 7人</p> <p>産業廃水処理技術 7人 エネルギー管理 10人</p> <p>ワクチン予防可能疾患の根絶セミナー 9人 地域保健指導者(継続) 5人</p> <p>産業界医学 9人 廃棄物処理技術(継続) 8人</p> <p>通信線路技術者育成 5人 設備のリノベーション(継続) 8人</p> <p>魚類防疫・環境管理 8人 医薬品の効果判定セミナー(継続) 6人</p> <p>生活排水対策 6人</p>
小計	162人	56人	218人	
2. 一般特設研修コース KIC所管	18コース 146人	1コース 8人	154人	<p>プラントメンテナンス技術(中近東・アフリカ) 6人 農作業に伴う健康障害予防対策セミナー 8人</p> <p>プラント用機械保安部品 5人 持続可能な産業開発トップマネージャーセミナー 8人</p> <p>鋼材の加工と加工特性 8人 地方自治体による環境再生・保全行政(水保の経験と教訓) 9人</p> <p>女性の地位向上のための行政官セミナー 8人 ハイテク産業における機械制御 6人</p> <p>AIDS/ATL対策セミナー 8人 高齢化社会と福祉行政セミナー 7人</p> <p>地熱エネルギーと環境科学 10人 通信線路保安技術 10人</p> <p>ウイルス肝炎対策セミナー 8人 「環境と開発と女性」セミナー 8人</p> <p>循環型社会による環境保全型持続的農林業(地域振興行政セミナー(一村一品運動)) 9人 設置産業設備のリノベーション 9人</p> <p>地域振興行政セミナー(一村一品運動) 12人 非破壊検査技術 II 8人</p>
小計	146人	8人	154人	
3. 個別研修コース (1)カウンタート	43人	15人	58人	
(2)個別一般	20人	2人	22人	開発途上国の環境NGOのための人材育成コース 6人
(3)個別特設	72人	21人	93人	<p>フィリピンー都市及び産業における環境管理・環境対処能力向上 10人 東欧ー産業環境対策 10人</p> <p>マレーシアー産業物理立技術 4人 トルコー省エネルギー及びエネルギー管理 新規7 / 継続 5人</p> <p>中国ー技術協力促進 15人 アフリカー電話線路保安建設技術者 新規10 / 継続 12人</p> <p>パレスチナー初等中等教育 10人 パレスチナー医療技術改善 新規6 / 継続 4人</p> <p>産業工学・品質管理 II 4人</p>
(4)日露交流 (特別案件)	4人	0人	4人	
(5)国際機関	1人	0人	1人	栄養学的健康関連環境学 1人
(6)長期研修	3人	0人	3人	
小計	143人	38人	181人	
合計	451人	102人	553人	

1-1-2. 平成12年度県別研修員受入状況



県名	受入機関名
山口	水産庁水産大学校
福岡	(財)北九州国医療技術協力協会 北九州市社会福祉協議会・北九州市保健福祉局・ 北九州市環境局・北九州市消防局 (財)アジア女性交流・研究フォーラム 産業医科大学 香ノ聖母会聖マリア病院 西日本電信電話(株) 九州国際大学 九州大学歯学部農学部/工学部/医学部/比較社会文化研究科 九州大学熱帯農学研究センター・九州大学大学院理学研究科 (財)福岡国際交流協会 大牟田市役所・大牟田市動物園 西日本技術開発(株) (財)石炭エネルギーセンター (財)日本国際協力センター
長崎	長崎大学熱帯医学研究所 国立長崎中央病院
大分	大分県海外協会 大分医科大学 立命館アジア太平洋大学
熊本	(財)国際保健医療交流センター 国立熊本病院 熊本大学薬学部/医学部 水保市 深発省国立水保病総合研究センター 熊本県水産研究センター 農林水産省家畜改良センター熊本牧場
宮崎	農林水産省家畜改良センター宮崎牧場 宮崎大学
鹿児島	(財)カラモジア 鹿児島県環境生活部環境保護課 三井農林海洋産業(株)鹿児島アファーム 家畜衛生試験場九州支場

注) 但し、集団コースに参加の個別研修員はここでは集団人数に含まれる。

1-1-3. 平成12年度国別・形態別研修員受入実績表

《アジア地域》 国名	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
インドネシア	14	4	2	0	20
マレーシア	11	4	4	0	19
フィリピン	19	18	2	1	40
タイ	28	3	8	0	39
カンボディア	4	2	0	0	6
ラオス	4	2	0	0	6
ヴィエトナム	3	5	0	3	11
中国	18	23	2	3	46
ミャンマー	1	1	0	0	2
モンゴル	3	1	0	0	4
ブータン	3	0	1	0	4
バンングラデシュ	14	1	3	3	21
インド	5	2	1	0	8
モルディヴ	1	0	0	0	1
ネパール	2	0	0	0	2
パキスタン	12	1	4	0	17
スリ・ランカ	8	0	3	0	11
キルギス	1	0	0	0	1
タジキスタン	1	0	0	0	1
グルジア	1	0	0	0	1
20か国合計	153	67	30	10	260

《大洋州地域》 国名	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
フィジー	5	0	0	0	5
ミクロネシア	1	0	0	0	1
パプア・ニューギニア	0	1	1	0	2
サモア	3	0	0	0	3
4か国合計	9	1	1	0	11

《欧州地域》 国名	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
アルバニア	1	0	0	0	1
ブルガリア	1	3	0	0	4
クロアチア	1	0	0	0	1
リトアニア	0	1	0	0	1
ルーマニア	0	3	0	0	3
マケドニア	0	2	0	0	2
ハンガリー	2	1	0	0	3
7か国合計	5	10	0	0	15

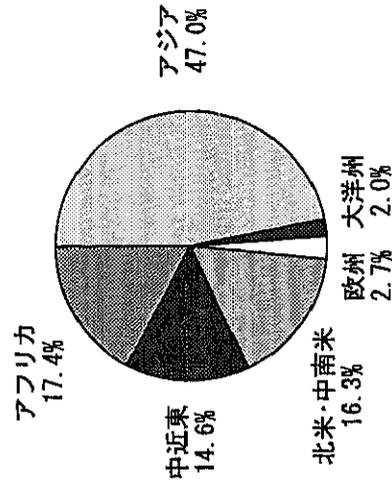
《北米・中南米地域》 国名	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
ベリーズ	1	0	0	0	1
コスタ・リカ	1	0	0	0	1
ドミニカ共和国	1	4	0	2	7
エル・サルヴァドル	1	0	0	0	1
グアテマラ	1	1	1	0	3
ハイティ	0	0	1	0	1
ホンデュラス	1	0	1	0	2
ジャマイカ	1	0	0	0	1
メキシコ	8	5	2	0	15
ニカラグア	0	1	0	0	1
パナマ	3	1	0	0	4
セント・クリストファー・ネイビス	0	0	1	0	1
セント・ルシア	1	0	0	0	1
アルゼンティン	4	1	0	0	5
ボリヴィア	1	1	1	0	3
ブラジル	10	0	4	0	14
チリ	3	0	0	0	3
コロンビア	8	0	2	0	10
パラグアイ	3	0	0	0	3
ペルー	9	1	0	0	10
ウルグアイ	1	1	0	0	2
ヴェネズエラ	1	0	0	0	1
22か国合計	59	16	13	2	90

《中近東地域》 国名	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
イラン	5	1	0	0	6
パレスチナ	1	16	1	4	22
ジョルダン	1	0	0	0	1
オマーン	0	0	1	0	1
サウディ・アラビア	7	0	0	0	7
シリア	2	0	3	0	5
トルコ	7	9	2	5	23
アルジェリア	0	1	0	0	1
エジプト	6	2	6	0	14
チュニジア	1	0	0	0	1
10か国合計	30	29	13	9	81

《アフリカ地域》 国名	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
エチオピア	4	2	0	2	8
ガーナ	2	2	0	2	6
ケニア	10	2	0	0	12
マラウイ	5	0	0	1	6
ナミビア	1	0	0	0	1
ナイジェリア	2	0	0	0	2
セイシエル	1	0	0	0	1
スワジランド	1	1	0	2	4
ウガンダ	3	0	3	0	6
タンザニア	10	2	2	2	16
ザンビア	4	3	1	3	11
ジンバブエ	3	0	0	0	3
アンゴラ	0	2	0	2	4
ブルンディ	0	1	0	0	1
カメルーン	1	0	0	0	1
マダガスカル	0	3	0	2	5
モーリタニア	2	0	0	0	2
モーリシウス	0	1	0	0	1
ニジェール	1	1	0	1	3
ルワンダ	1	0	1	0	2
セネガル	1	0	0	0	1
21か国合計	52	20	7	17	96

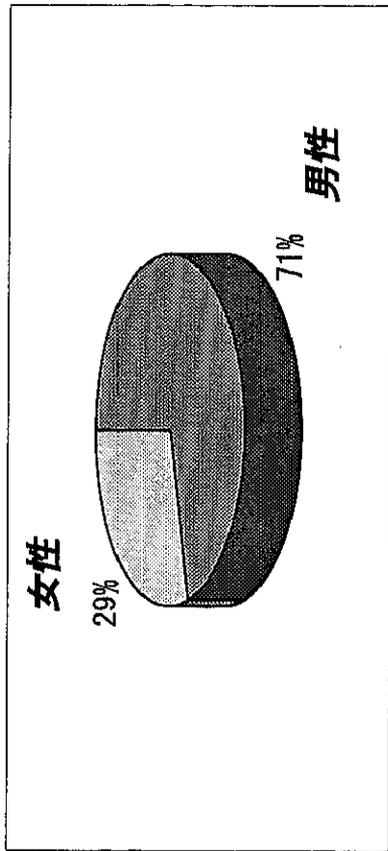
地域	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
アジア	153	67	30	10	260
大洋州	9	1	1	0	11
欧州	5	10	0	0	15
北米・中南米	59	16	13	2	90
中近東	30	29	13	9	81
アフリカ	52	20	7	17	96
84か国合計	308	143	64	38	553

【地域別割合】

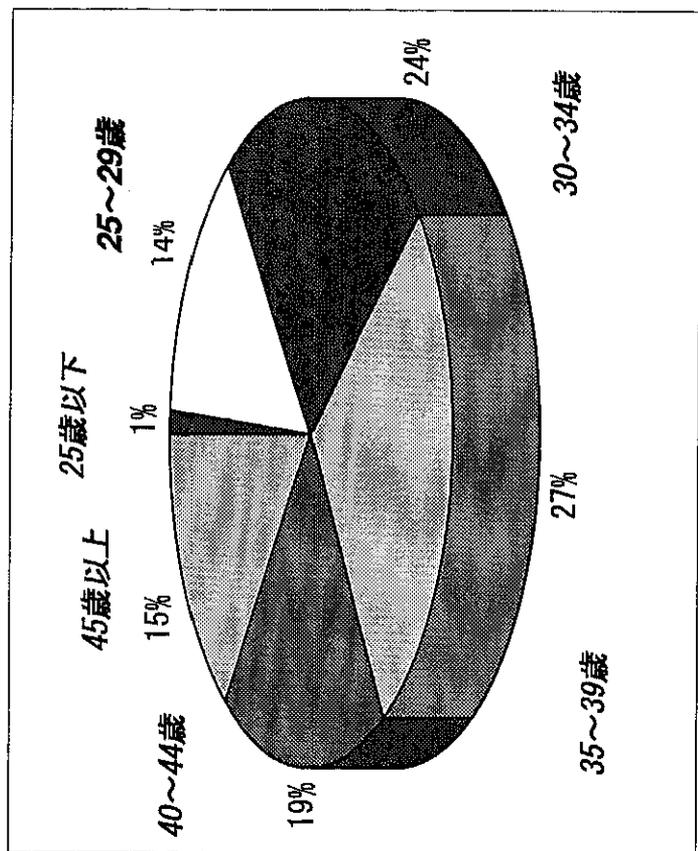


1-1-4. 平成12年度受入研修員男女比・年齢構成表

《男女比》	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
男性	209	107	42	34	392
女性	99	36	22	4	161
計	308	143	64	38	553

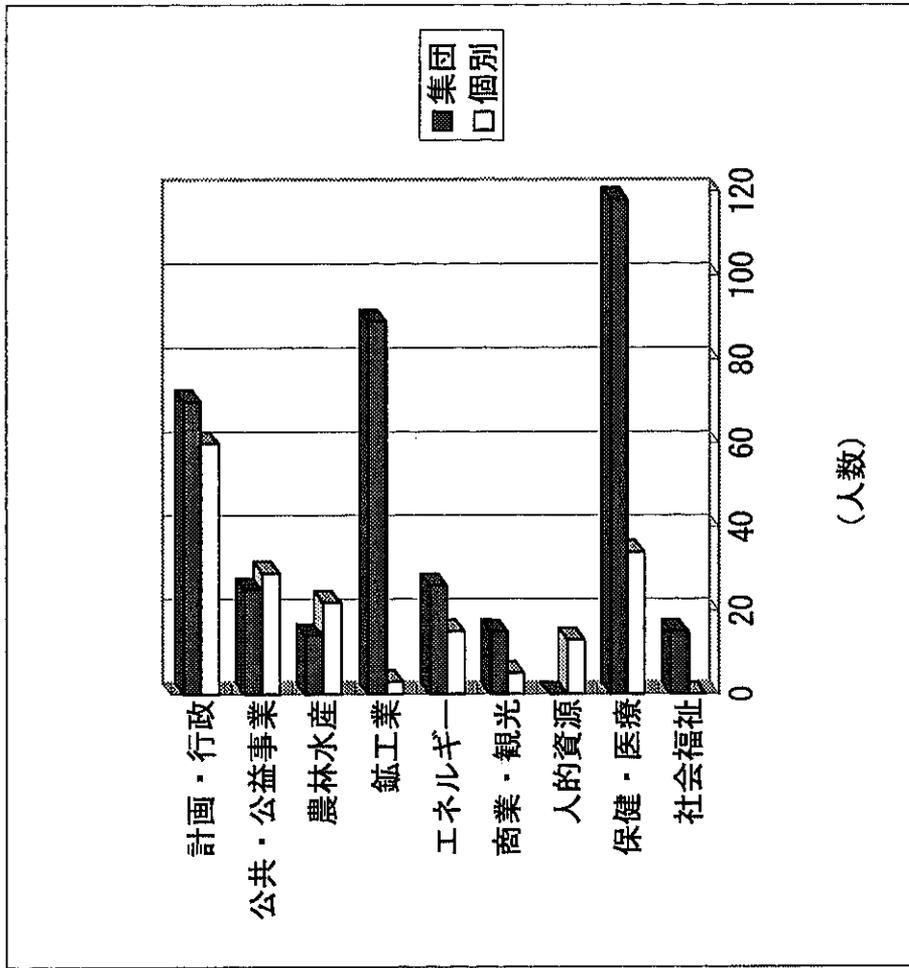


《年齢構成表》	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
25歳未満	3	2	1	0	6
25～29	47	17	4	8	76
30～34	77	24	25	6	132
35～39	93	31	22	5	151
40～44	51	37	8	10	106
45歳以上	37	32	4	9	82
計	308	143	64	38	553



1-1-5. 平成12年度分野別研修員受入実績表

《分野》	新規		継続		計
	集団	個別	集団	個別	
1. 計画・行政	70	57	0	3	130
2. 公共・公益事業	19	17	6	12	54
3. 農林水産	14	14	0	8	36
4. 鉱工業	64	3	25	0	92
5. エネルギー	20	10	6	5	41
6. 商業・観光	15	5	0	0	20
7. 人的資源	0	13	0	0	13
8. 保健・医療	91	24	27	10	152
9. 社会福祉	15	0	0	0	15
計	308	143	64	38	553



1-1-6. 累計実績 期間：平成元年～平成12年

＜アジア地域＞ 国名	受入人数		計
	～H11迄	H12	
ブルネイ	7	0	7
インドネシア	371	18	389
マレーシア	239	15	254
フィリピン	318	37	355
シンガポール	9	0	9
タイ	439	31	470
カンボディア	45	6	51
ラオス	34	6	40
グアテマラ	48	8	56
中国	356	41	397
ミャンマー	18	2	20
大韓民国	53	0	53
モンゴル	11	4	15
バンラデシュ	98	15	113
ブータン	9	3	12
インド	67	7	74
モルディヴ	7	1	8
ネパール	33	2	35
パキスタン	119	13	132
スリ・ランカ	94	8	102
香港	10	0	10
アルメニア	2	0	2
カザフスタン	1	0	1
キルギス	2	1	3
タジキスタン	0	1	1
グルジア	0	1	1
26ヶ国合計	2390	220	2608

＜大洋州地域＞ 国名	受入人数		計
	～H11迄	H12	
フィジー	16	5	21
キリバス	2	0	2
マーシャル群島	1	0	1
ミクロネシア	5	1	6
パプアニューギニア	26	1	27
ソロモン群島	6	0	6
トンガ	5	0	5
トウヴァル	2	0	2
ヴァヌアツ	5	0	5
サモア	9	3	12
クック群島	1	0	1
パラオ	3	0	3
12ヶ国合計	81	10	91

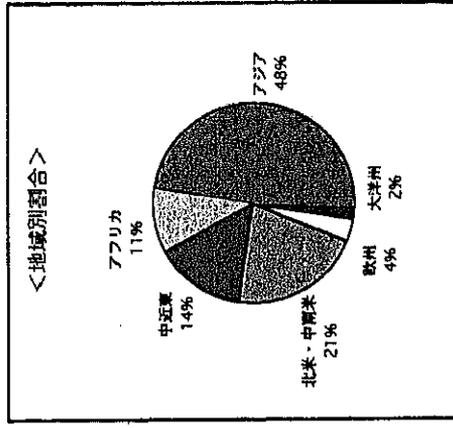
＜欧州地域＞ 国名	受入人数		計
	～H11迄	H12	
アルバニア	1	1	2
ブルガリア	22	4	26
クロアチア	5	1	6
チェッコ	9	0	9
ハンガリー	15	3	18
ポーランド	46	0	46
エストニア	1	0	1
ラトヴィア	2	0	2
リトアニア	3	1	4
ルーマニア	24	3	27
スロヴァキア	17	0	17
スロヴェニア	5	0	5
ウクライナ	1	0	1
サイプラス	1	0	1
ギリシア	18	0	18
マルタ	5	0	5
ポルトガル	2	0	2
フィンランド	3	0	3
マケドニア	7	2	9
19ヶ国合計	187	15	202

＜中近東地域＞ 国名	受入人数		計
	～H11迄	H12	
バハレーン	9	0	9
イラン	42	6	48
イラク	3	0	3
ジョルダン	52	1	53
クウェイト	2	0	2
レバノン	7	0	7
オマーン	5	0	5
カタール	3	0	3
サウディ・アラビア	97	7	104
シリア	38	2	40
トルコ	114	16	130
アラブ首長国連邦	3	0	3
イエメン	4	0	4
アルジェリア	8	1	9
エジプト	172	8	180
モロッコ	10	0	10
スーダン	2	0	2
チュニジア	23	1	24
パレスチナ	126	17	143
19ヶ国合計	720	59	779

＜北米・中南米地域＞ 国名	受入人数		計
	～H11迄	H12	
英領モンセラット	1	0	1
アンティグア	2	0	2
バハマ	1	0	1
バルバドス	9	0	9
バリーズ	2	1	3
コスタ・リカ	18	1	19
キューバ	5	0	5
ドミニカ	8	0	8
ドミニカ共和国	30	5	35
エルサルバドル	18	1	19
グレナダ	5	0	5
グアテマラ	34	2	36
ハイティ	4	0	4
ホンジュラス	23	1	24
ジャマイカ	11	1	12
メキシコ	159	13	172
ニカラグア	16	1	17
パナマ	18	4	22
セント・クリストファー・ネイビス	5	0	5
セント・ルシア	5	1	6
セント・ビンセント・グレナディーン	4	0	4
トリニダード・トバゴ	7	0	7
アルゼンティン	65	5	70
ボリビア	25	2	27
ブラジル	274	10	284
チリ	51	3	54
コロンビア	71	8	79
エクアドル	22	0	22
ガイアナ	4	0	4
パラグアイ	41	3	44
ペルー	74	10	84
スリナム	6	0	6
ウルグアイ	21	2	23
ヴェネズエラ	20	1	21
34ヶ国合計	1059	75	1134

＜アフリカ地域＞ 国名	受入人数		計
	～H11迄	H12	
ボツワナ	2	0	2
エトピア	23	6	29
エリトリア	1	0	1
ガンビア	1	0	1
ガーナ	59	4	63
ケニア	92	12	104
レソト	2	0	2
リベリア	1	0	1
マラウイ	17	5	22
ナイジェリア	11	2	13
ナミビア	1	1	2
セシエル	3	1	4
南アフリカ	48	0	48
スワジランド	6	2	8
タンザニア	66	12	78
ウガンダ	21	3	24
ザンビア	50	7	57
バナン	6	0	6
ブルキナ・ファソ	2	0	2
ジンバブエ	4	3	7
アンゴラ	4	2	6
チャード	1	0	1
カメルーン	3	1	4
カーボ・ヴェルデ	1	0	1
中央アフリカ	4	0	4
コンゴ	1	0	1
象牙海岸	20	0	20
ジブチ	1	0	1
赤道ギニア	1	0	1
ギニア	2	0	2
ギニア・ビサウ	1	0	1
ブルンディ	0	1	1
マダガスカル	7	3	10
マリ	2	0	2
モーリタニア	6	2	8
モーリタニア	8	1	9
ニジェール	3	2	5
ルワンダ	7	1	8
セネガル	20	1	21
シエラ・レオネ	3	0	3
ザイール	5	0	5
41ヶ国合計	516	72	588

地域	受入人数		計
	～H11迄	H12	
アジア	2390	220	2610
大洋州	81	10	91
欧州	187	15	202
北米・中南米	1059	75	1134
中近東	720	59	779
アフリカ	516	72	588
151ヶ国合計	4953	451	5404



1-1-7. 平成12年度研修コース別実績表

① 集団研修コース

A 産業分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
1	設備診断技術 Machine Condition Diagnosis Technique	8	8	00.06.19～00.10.15	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
2	自動制御(基礎) Automatic Control (General Introduction)	7	6	00.07.03～00.11.22	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
3	生産性向上技術 Production Management (Theory & Practice on Work Improvement)	8	8 (1)	00.10.09～01.02.22	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
4	生産設備の保全管理 Plant Maintenance Management	9	9	01.01.08～01.05.03	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
5	エネルギー管理 Energy Management	6	6	01.01.15～01.05.30	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)

B 環境分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
6	産業環境対策 Industrial Pollution Control Engineering	7	7	00.04.24～00.08.05	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
7	産業廃水処理技術 Industrial Wastewater Treatment Technique	8	8	00.07.17～00.11.26	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
8	生活排水対策 Domestic Waste Water Treatment Techniques	8	8	00.08.21～00.12.03	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
9	大気汚染源モニタリング管理 Air Pollution Source Monitoring Management	9	10 (2)	00.08.28～00.12.13	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)

### C 保健医療分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
10	歯学 Clinical Dentistry	11	11	00.04.10～00.08.11	九州大学歯学部
11	母子保健指標改善対策 Counter-Measure for Improvement of Maternal & Child-Health Indices	8	9 (1)	00.05.08～00.06.18	(財)国際保健医療交流センター (ACIH)
12	ワクチン予防可能疾患の根絶セミナー Seminar on Eradication of Vaccine Preventable Disease	7	9 (2)	00.07.24～00.08.28	(財)国際保健医療交流センター (ACIH)
13	産業医学 Occupational Health	10	10	00.08.07～00.12.07	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA) 産業医科大学
14	病院経営・財務管理 Hospital Management (with Special Reference to Financial Capacity Building)	5	6 (1)	00.09.18～00.11.27	雪ノ聖母会聖マリア病院
15	薬剤耐性病原体の実験室診断 Development of Laboratory Diagnosis of Drug Resistant Microbes	8	8	00.11.13～01.04.08	(財)国際保健医療交流センター (ACIH) 国立熊本病院
16	熱帯医学研究 Research for Tropical Medicine	9	10 (1)	01.01.08～01.12.17	長崎大学熱帯医学研究所
17	地域保健指導者 Community Health Services	8	10 (1)	01.03.05～01.06.30	雪ノ聖母会聖マリア病院

### D その他

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
18	消火技術 Fire Fighting Techniques	10	10	00.07.10～00.10.27	北九州市消防局訓練研修センター
19	通信線路技術者育成 Telecommunication Outside Plant Engineering Techniques	9	9	00.08.07～00.12.02	西日本電信電話株式会社
20	魚類防疫・環境管理 Fish Pathology and Environmental Management of Aquaculture	5	5	00.08.21～00.11.26	水産庁水産大学校
21	石炭資源開発・利用 Coal Science and Technology	5	4	00.09.11～00.11.29	九州大学工学部

## ② 特設コース

### A 産業分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内訳)	研修期間	研修受入先
1	プラントメンテナンス技術-地球環境と設備保全 (中近東・アフリカ) Plant Maintenance Engineering-Global Environment & Plant Maintenance(Middle East・Africa)	7	6	00.04.03~00.08.28	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
2	プラント用機械保全部品 Mechanical Spare Parts for Plant Maintenance	7	5	00.04.10~00.09.10	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
3	鋼材の加工と加工特性 Steel Properties and Its Applications	8	8	00.05.29~00.10.07	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
4	持続可能な産業開発トップマネジメントセミナー Top Management Seminar on Sustainable Industrial Development	8	8	00.10.16~00.11.26	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
5	ハイテク産業における機械制御 Machine Control in High-Tech Industries	6	6	00.10.23~01.03.18	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
6	装置産業設備のリノベーション Renovation of Process Industry Equipment	9	9	01.02.12~01.07.01	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
7	非破壊検査技術 II Non-Destructive Inspection Technique	8	7	01.02.19~01.06.24	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)

### B 環境分野

該当コースなし

### C 保健医療分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内訳)	研修期間	研修受入先
8	AIDS/ATL対策セミナー Seminar on Epidemiology and Control of AIDS/ATL Diseases	8	10 (2)	00.08.07~00.09.04	(財)国際保健医療交流センター (ACIH) 国立熊本病院
9	ウイルス肝炎対策セミナー Seminar on Infectious Hepatitis, It's Epidemiology and Control	8	8	00.08.28~00.09.25	(財)国際保健医療交流センター (ACIH) 国立熊本病院
10	農作業に伴う健康障害予防対策セミナー Prevention of Health Hazards Resulting from Agricultural Work	8	8	00.09.25~00.11.27	(財)国際保健医療交流センター (ACIH)
11	高齢化社会と福祉行政セミナー Seminar on Aging Society and Welfare Policy	6	7	01.01.08~01.03.07	北九州市社会福祉協議会 北九州市保健福祉局 (福)北九州市社会福祉ボランティア大学校

D その他

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
12	女性の地位向上のための行政官セミナー Seminar on Improvement of the Status of Women for Government Officers	8	8	00.06.19～00.07.23	(財)アジア女性交流・研究フォーラム
13	地熱エネルギーと環境科学 Geothermal Energy and Environmental Sciences	10	11 (1)	00.08.07～00.12.07	九州大学工学部
14	循環システムによる環境保全型持続農業セミナー(東アフリカ) Seminar on Environmentally Sustainable Agriculture and Forestry Through a Symbiotic System of Human & Natural Resources (East Africa)	10	9	00.09.11～00.10.30	(財)カラモジア
15	地域振興行政セミナー(一村一品運動) Seminar on Administration for Rural/Regional Development : One Village, One Product Movement	12	16 (4)	00.09.25～00.11.12	大分県海外協会
16	地方自治体による環境再生・保全行政(水俣病の経験と教訓) Administration Management for Environmental Restoration & Conservation by Minamata City Gov't Lesson	10	9	00.10.16～00.11.29	水俣市
17	通信線路保全技術 Telecommunication Outside Plant Maintenance Technique	10	10	01.01.15～01.03.16	西日本電信電話株式会社
18	「環境と開発と女性」セミナー Seminar on Women in Environment and Development	7	8	01.01.22～01.03.14	(財)アジア女性交流・研究フォーラム

③ 国別特設コース等

A 産業分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
1	メキシコ:「日墨交流計画」(産業工学・品質管理2) Industrial Engineering and Quality Control	8	4	00.05.08~00.11.16	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
2	トルコ:省エネルギー及びエネルギー管理 Energy Conservation and Management	5	7	01.03.19~01.06.01	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)

B 環境分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
3	フィリピン:都市及び産業における環境管理・環境対処能力向上 Capacity Development in Urban and Industrial Environmental Management	10	10	00.06.12~00.08.10	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
4	開発途上国の環境 NGO のための人材育成 Capacity Building for Environmental NGOs	8	6	00.08.21~00.09.10	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)
5	マレーシア:廃棄物埋立技術 Landfill Technology for Solid Waste Management	4	4	00.09.18~00.10.26	(財)福岡国際交流協会
6	東欧:産業環境対策 Industrial Pollution Control	9	10	01.01.29~01.03.21	(財)北九州国際技術協力協会 (KITA)

C 保健医療分野

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
7	パレスチナ:医療技術改善 Clinical Technology Improvement for Palestine	6	6	01.03.26~01.07.21	(財)国際保健医療交流センター (ACIH) 国立熊本病院

D その他

No.	コース名 (英語名)	定員	受入人数 (個別・内数)	研修期間	研修受入先
8	中国:技術協力促進 Promotion of Technical Cooperation	15	15	00.09.18~00.12.16	(財)日本国際協力センター
9	パレスチナ:初等中等教育 Seminar on Elementary and Secondary School Education	8	10	01.01.29~01.03.10	九州国際大学
10	アフリカ電話線路保全建設技術者 Telecommunication Plant Maintenance and Construction Engineering Techniques for African Countries	12	10	01.03.26~01.06.23	西日本電信電話株式会社

1-1-8. 研修用主要機材

機材名	所在場所	主な使用研修コース
シーケンス制御	実習室1	プラントメンテナンス技術 自動制御(基礎) 産業廃水処理技術 設備のリノベーション ハイテク産業における機械制御 生産設備の保全管理
プロセス制御	実習室1	自動制御(基礎) 産業廃水処理技術 エネルギー管理 設備のリノベーション ハイテク産業における機械制御
デジタルプロセス制御	実習室1	自動制御(基礎)
計算機制御	CRNo.2※	ハイテク産業における機械制御
機械システムダイナミクス演習	CRNo.2※	ハイテク産業における機械制御
コンピューターリテラシー	実習室2	プラントメンテナンス技術 自動制御(基礎) ハイテク産業における機械制御 設備のリノベーション
制御系設計演習	CRNo.2※	ハイテク産業における機械制御
マイコン基礎と応用	CRNo.2※	自動制御(基礎)
設備診断技術	実習室3A	プラントメンテナンス技術 設備診断技術 プラント用機械予備品の製作と補修 生産設備の保全管理 設備のリノベーション
非破壊検査技術	実習室3A	鋼材の加工と加工特性 プラントメンテナンス技術 設備診断技術 プラント用機械予備品の製作と補修 生産設備の保全管理 設備のリノベーション 非破壊検査技術II
サーボモーター制御	実習室3A	ハイテク産業における機械制御
電子回路と制御	実習室3A	ハイテク産業における機械制御
CAD演習	CRNo.2※	プラントメンテナンス技術 日墨交流 産業工学・品質管理 産業廃水処理技術 設備のリノベーション プラント用機械予備品の製作と補修 生産性向上技術
保全データの管理	CRNo.2※	生産設備の保全管理 設備診断技術
コンピューターの設備診断への応用	CRNo.2※	設備診断技術

※CRNo.2：コンピュータールームNo.2

## 1-2. ブリーフィング・オリエンテーション

### 1-2-1. ブリーフィング

研修員が当センターに到着した翌日に、日常生活上及び研修上必要な基礎知識を提供するため、ブリーフィングプログラムを実施しています。

平成12年度の参加研修員は集団・個別合計で73コース、431名でした。

#### ブリーフィングプログラム

時 間 帯	内 容
第1日目（火）	
09：40～09：45	スケジュール説明
09：45～10：00	ビデオ上映“A Guide to JICA”
10：00～10：10	K I C次長挨拶
10：10～10：15	K I C担当職員、研修監理員紹介
10：15～10：30	帰国便説明、医療カード記入及び回収
10：30～11：20	K I C施設利用についての説明
11：20～12：15	K I C館内ツアー
	昼 食
13：30～15：00	Form of Register 記入 医療カード配布及び使用方法説明 諸手当説明 銀行カード配布及び使用方法説明 外国人登録証説明、申請書書き込み
15：00～15：30	A T Mで銀行カード試用
第2日目（水）	
10：00～11：30	八幡東区役所で外国人登録

### 1-2-2. オリエンテーション

ブリーフィングに引き続き、研修員に対して日本事情を紹介するオリエンテーションが実施されます。プログラムでは、バスツアーや社会・経済・政治等の講義を通じて日本理解を深めるとともに、研修活動や日常生活の円滑化を図ります。

平成12年度のオリエンテーション参加研修員は集団・個別合計で55コース、373名でした。

また、研修員のうち希望者を対象に茶道、華道、剣道、邦楽、書道のオリエンテーションを実施し、伝統的な日本文化を紹介しています。

オリエンテーションプログラム

日・時間帯	内 容
第1日目(水) 13:00～17:10	北九州バスツアー K I C－黒崎－関門橋－関門海底トンネル －門司港－小倉市街－小倉城－K I C
第2日目(木) 09:45～10:00 10:00～12:00 12:00～13:30 13:30～14:30 14:30～14:45 14:45～16:45	「オリエンテーション」の説明 日本の社会と日本人 休 憩 日 本 語 休 憩 日本の教育
第3日目(金) 09:45～11:45 11:45～13:15 13:15～14:45 14:45～15:00 15:00～17:00	日本の経済 休 憩 日本の政治・行政機構 休 憩 日本の歴史・文化

平成12年度 オリエンテーション参加コース一覧

No.	コース名	プリアオリ実施年月日				参加人数	受入期間
		火曜日	水曜日	木曜日	金曜日		
1	プラントメンテナンス技術-地球環境と設備保全(中近東・アフリカ)	00. 4. 4	00. 4. 5	00. 4. 6	00. 4. 7	5	2000. 4. 3-2000. 8. 28
2	歯 学	00. 4. 11	00. 4. 12	00. 4. 13	00. 4. 14	11	2000. 4. 10-2000. 8. 11
3	プラント用機械保全部品	00. 4. 11	00. 4. 12	00. 4. 13	00. 4. 14	5	2000. 4. 10-2000. 9. 10
4	産業環境対策	00. 4. 25	00. 4. 26	00. 4. 27	00. 4. 28	7	2000. 4. 24-2000. 8. 5
5	母子保健指標改善対策	00. 5. 9	00. 5. 10	00. 5. 11	00. 5. 12	9	2000. 5. 8-2000. 6. 18
6	鋼材の加工と加工特性	00. 5. 30	00. 5. 31	00. 6. 1	00. 6. 2	8	2000. 5. 29-2000. 10. 7
7	フィレン:都市及び産業における環境管理・環境対策	00. 6. 13	00. 6. 14	00. 6. 15	00. 6. 16	10	2000. 6. 12-2000. 8. 10
8	設備診断技術	00. 6. 20	00. 6. 21	00. 6. 22	00. 6. 23	8	2000. 6. 19-2000. 10. 15
9	女性の地位向上のための行政官セミナー	00. 6. 20	00. 6. 21	00. 6. 22	00. 6. 23	8	2000. 6. 19-2000. 7. 23
10	自動制御(基礎)	00. 7. 4	00. 7. 5	00. 7. 6	00. 7. 7	6	2000. 7. 3-2000. 11. 22
11	消火技術	00. 7. 11	00. 7. 12	00. 7. 13	00. 7. 14	10	2000. 7. 10-2000. 10. 27
12	産業廃水処理技術	00. 7. 18	00. 7. 19		00. 7. 21	8	2000. 7. 17-2000. 11. 26
13	ワクチン予防可能疾患の根絶セミナー	00. 7. 25	00. 7. 26	00. 7. 27	00. 7. 28	9	2000. 7. 24-2000. 8. 28
14	通信線路技術者育成	00. 8. 8	00. 8. 9	00. 8. 10	00. 8. 11	9	2000. 8. 7-2000. 12. 2
15	産業医学	00. 8. 8	00. 8. 9	00. 8. 10	00. 8. 11	10	2000. 8. 7-2000. 12. 7
16	AIDS/ATL対策セミナー	00. 8. 8	00. 8. 9	00. 8. 10	00. 8. 11	9	2000. 8. 7-2000. 9. 4
17	地熱エネルギーと環境科学	00. 8. 8	00. 8. 9	00. 8. 10	00. 8. 11	11	2000. 8. 7-2000. 12. 7
18	魚類防疫・環境管理	00. 8. 22	00. 8. 23	00. 8. 24	00. 8. 25	5	2000. 8. 21-2000. 11. 26
19	生活排水対策	00. 8. 22	00. 8. 23	00. 8. 24	00. 8. 25	8	2000. 8. 21-2000. 12. 3
20	開発途上国の環境NGOのための人材育成コース	00. 8. 22				6	2000. 8. 21-2000. 9. 10
21	大気汚染源モニタリング管理	00. 8. 29	00. 8. 30	00. 8. 31	00. 9. 1	10	2000. 8. 28-2000. 12. 13
22	ウイルス肝炎対策セミナー	00. 8. 29	00. 8. 30	00. 8. 31	00. 9. 1	8	2000. 8. 28-2000. 9. 25
23	石炭資源開発・利用	00. 9. 12	00. 9. 13	00. 9. 14		4	2000. 9. 11-2000. 11. 29
24	循環システムによる環境保全型持続的農林業セミナー(東アフリカ)	00. 9. 12	00. 9. 13	00. 9. 14		9	2000. 9. 11-2000. 10. 30
25	病院経営・財務管理	00. 9. 19	00. 9. 20	00. 9. 21	00. 9. 22	6	2000. 9. 18-2000. 11. 27
26	マレーシア:廃棄物埋立技術	00. 9. 19	00. 9. 20	00. 9. 21	00. 9. 22	4	2000. 9. 18-2000. 10. 26
27	中国:技術協力促進	00. 9. 19				15	2000. 9. 18-2000. 12. 16
28	地域振興行政セミナー(一村一品運動)	00. 9. 26	00. 9. 27	00. 9. 28	00. 9. 29	16	2000. 9. 25-2000. 11. 12
29	農作業に伴う健康障害予防対策セミナー	00. 9. 26	00. 9. 27	00. 9. 28	00. 9. 29	8	2000. 9. 25-2000. 11. 27
30	生産性向上技術	00. 10. 10	00. 10. 11	00. 10. 12	00. 10. 13	8	2000. 10. 9-2001. 2. 22
31	持続可能な産業開発トップマネジメントセミナー	00. 10. 17	00. 10. 18	00. 10. 19	00. 10. 20	8	2000. 10. 16-2000. 11. 26
32	地方自治体による環境再生・保全行政(水俣病の経験と教訓)	00. 10. 17	00. 10. 18	00. 10. 19	00. 10. 20	9	2000. 10. 16-2000. 11. 29
33	ハイテク産業における機械制御	00. 10. 24	00. 10. 25	00. 10. 26	00. 10. 27	6	2000. 10. 23-2001. 3. 18
34	薬剤耐性病原体の実験室診断	00. 11. 14	00. 11. 15	00. 11. 16	00. 11. 17	8	2000. 11. 13-2001. 4. 8
35	熱帯医学研究	01. 1. 9	01. 1. 10	01. 1. 11	01. 1. 12	10	2001. 1. 8-2001. 12. 17
36	生産設備の保全管理	01. 1. 9	01. 1. 10	01. 1. 11	01. 1. 12	9	2001. 1. 8-2001. 5. 3
37	高齢化社会と福祉行政セミナー	01. 1. 9	01. 1. 10	01. 1. 11	01. 1. 12	7	2001. 1. 8-2001. 3. 7
38	エネルギー管理	01. 1. 16	01. 1. 17	01. 1. 18	01. 1. 19	6	2001. 1. 15-2001. 5. 30
39	通信線路保全技術	01. 1. 16	01. 1. 17	01. 1. 18	01. 1. 19	10	2001. 1. 15-2001. 3. 16
40	「環境と開発と女性」セミナー	01. 1. 23	01. 1. 24	01. 1. 25	01. 1. 26	8	2001. 1. 22-2001. 3. 14
41	東欧:産業環境対策	01. 1. 30	01. 1. 31	01. 2. 1	01. 2. 2	10	2001. 1. 29-2001. 3. 21
42	パレスチナ:初等中等教育	01. 1. 30	01. 1. 31	01. 2. 1	01. 2. 2	10	2001. 1. 29-2001. 3. 10
43	装置産業設備のリノベーション	01. 2. 13	01. 2. 14	01. 2. 15	01. 2. 16	9	2001. 2. 12-2001. 7. 1
44	非破壊検査技術II	01. 2. 20	01. 2. 21	01. 2. 22	01. 2. 23	7	2001. 2. 19-2001. 6. 24
45	地域保健指導者	01. 3. 6	01. 3. 7	01. 3. 8	01. 3. 9	10	2001. 3. 5-2001. 6. 30
46	トルコ:省エネルギー及びエネルギー管理		01. 3. 21	01. 3. 22	01. 3. 23	7	2001. 3. 19-2001. 6. 1
47	パレスチナ:医療技術改善	01. 3. 27	01. 3. 28	01. 3. 29	01. 3. 30	6	2001. 3. 26-2001. 7. 21
48	アフリカ:電話線路網屋外施設技術者	01. 3. 27	01. 3. 28	01. 3. 29	01. 3. 30	10	2001. 3. 26-2001. 6. 23

平成12年度 日本文化紹介オリエンテーション

回	日付	内容	参加数
第1回	4月28日(金)	華道(第1回)	20名
第2回	5月26日(金)	茶道(第1回)	11名
第3回	6月30日(金)	華道(第2回)	17名
第4回	7月28日(金)	茶道(第2回)	18名
第5回	8月18日(金)	書道(第1回)	20名
第6回	9月8日(金)	華道(第3回)	20名
第7回	9月29日(金)	茶道(第3回)	14名
第8回	10月5日(木)	華道(第4回)	20名
第9回	10月27日(金)	邦楽(第1回)	50名
第10回	11月17日(金)	華道(第5回)	15名
第11回	11月24日(金)	茶道(第4回)	16名
第12回	1月26日(金)	茶道(第5回)	23名
第13回	2月9日(金)	書道(第2回)	12名
第14回	2月23日(金)	華道(第6回)	15名
第15回	3月2日(金)	邦楽(第2回)	40名
第16回	3月17日(土)	剣道(第1回)	12名
第17回	3月30日(金)	茶道(第6回)	15名

### 1-3. 日本語研修

当センターは、研修員と技術研修の日本人関係者との意志疎通を円滑にし、研修の効果的遂行に資すること、また、日本の文化、習慣、日本人の行動様式等を学ぶことにより研修員の日本に対する理解を深めることを目的として、日本語研修を実施しています。

#### 1-3-1. 実施形態

##### (1) 集中講習

###### ア. 講習時間

午前 9 : 30 ~ 12 : 00 午後 1 : 30 ~ 4 : 00 (1 日 5 時間)

###### イ. 講習期間

集中講習は、生活上必要な最低限のフレーズを教える講習を、技術研修開始前に集中的に実施します。通常のコースでは 25 時間 (1 日 5 時間 × 5 日間) の講習を実施していますが、技術研修においてある程度日本語の知識が必要となるコースでは 25 時間以上の講習を実施することがあります。

###### ウ. 講習場所

JICA 九州国際センター

###### エ. 特記事項

- ・講習期間中に 1~2 回の野外学習を行い、交通機関の利用方法や買い物等サバイバルに重点をおいたカリキュラムを実施しています。
- ・久留米、熊本等九州国際センター以外に滞在して技術研修を行うコースに対しては、その地域に即した地名や名称、交通機関等によく使われる日本語を講習の中に取り入れました。

##### (2) 一般講習

###### ア. 講習時間

午後 6 : 50 ~ 8 : 20 (1 日 1.5 時間)

###### イ. 講習形態

一般講習では、研修員は基礎・応用・文字の 3 種類の講習を自由に選択します。

#### ウ. 講習期間

一般講習は、集中講習終了後技術研修中の夜間に実施します。基礎コースは27時間（1日1.5時間×18日間：月・水・金）、応用コースは9時間（1日1.5時間×6日間：火・木）、文字コースは6時間（1日1.5時間×4日間：火）実施しています。

#### (3) 館外講習

館外講習は、九州国際センター以外に滞在して技術研修を行う研修員のために開講しています。講習時間及び期間は各コース毎に設定します。

#### 1-3-2. 平成12年度実績

##### (1) 集中講習

クラス数	39
参加研修員数	318
総時間数	1285

##### (2) 一般講習

	基礎	応用	文字	合計
クラス数	20	10	9	39
参加研修員数	167	78	112	357
総時間数	460.5	90	94	644.5

##### (3) 館外講習

クラス数	5
参加研修員数	44
総時間数	145

##### (4) 総計

総参加人数*	519
総時間数	2074.5

\*複数コースに参加している研修員がいるため、延べ人数である。

1-4. 調査国派遣

派遣国	調査目的	調査期間	メンバー
中国 マレーシア	コース開設にあたり、研修ニーズおよび現地の環境保全状況を把握し、カリキュラム詳細を詰める。	平成12年8月14日 ～平成12年8月25日	水保市総務企画部企画課企画調整室次長 水田利博 水保市福祉環境部環境対策課環境企画室主査 緒方卓也 JICA 九州国際センター業務課 阿久津謙太郎
インド エジプト	製造設備保全分野における研修内容を見直すため、帰国研修員等関係者に面接し対象国における同分野の現状・課題を把握する。また在外研修開設の可能性を調査する。	平成12年10月8日～ 平成12年10月20日	元九州共立大学工学部長 嶺勝敏 国際協力総合研修所国際協力専門員 萩野瑞 JICA 九州国際センター業務課 山崎みさ
タンザニア エジプト	研修成果の確認。研修ニーズの把握。在外研修コース開設の可能性の調査。	平成12年12月2日～ 平成12年12月5日	NTT 西日本技術総合センター国際技術支援担当課長 中村俊一 NTT 西日本福岡支店設備部北九州設備部門主査 阿部勝美 JICA 九州国際センター業務課 紀太道英
トルコ 「省エネルギー及びエネルギー管理」	研修成果の確認。 研修ニーズの把握。 今後の展開の可能性の調査。	平成13年1月29日 ～平成13年2月9日	KITA コーサリダー 見学克美 九州共立大学理工学部教授 内富昭三 JICA 九州国際センター業務課長 松本淳 JICA 九州国際センター業務課 藤家 育
中国 「国際経済・ビジネス法」	長期研修員候補の面接選考。中国における法整備状況およびニーズの調査	平成13年4月9日～ 平成13年4月14日	九州大学大学院法学研究院助教授 角松生史 JICA 九州国際センター業務課 山崎みさ

## 2. 青年招へい事業

青年招へい事業は昭和 59 年に開始され、これまでに約 100 カ国から 2 万人を超える若者が日本各地を訪れています。当事業は、招へい青年と同世代の日本青年との交流を通じて相互理解を深め、信頼と友情を築くばかりでなく、ホームステイや企業・学校訪問を通じて地域の国際化にも大いに貢献しています。平成 12 年度は、出身国・地域別、専門分野別に 75 グループのプログラムが全国で実施され、九州各県では 9 グループ、206 名を受け入れました。各グループとも、それぞれの訪問県の歴史や特色を生かしたプログラムに参加し、ホストファミリーと生活を共にすることによって、日本と日本人に対する理解をより一層広げることが可能になっています。

平成12年度九州国際センター担当「青年招へい事業」受入実績表

第○陣	受入国 (分野名)	招へい青年数		分野別プログラム(地方)実施機関 (招へい期間)	実施協力団体	地方実施協力団体	県の窓口
		計画	実績				
第1陣				(5月10日～6月6日)			
第2陣				(5月17日～6月13日)			
第3陣				(5月17日～6月13日)			
第4陣	ヴェトナム 教育	22	22	6月7日～6月14日 (5月24日～6月20日)	(財) ユースワーカー能力開発協会	同左宮崎県支部	宮崎県国際課
第5陣	タイ 農業(水産)	23	23	6月14日～6月21日 (5月31日～6月27日) (6月7日～7月4日)	(社) 日本経済青年協議会	大分県海外協会	大分県国際交流課
第6陣				(6月21日～7月18日)			
第7陣				7月19日～7月26日 (7月5日～8月1日)	(社) 日本経済青年協議会	長崎県世界青年友の会	長崎県国際課
第8陣	韓国 青年指導者・公務員	25	23	(7月12日～8月8日) (7月12日～8月8日)			
第9陣				(7月12日～8月8日)			
第10陣				8月30日～9月6日 (8月16日～9月12日)	(社) 青年海外協力協会	(財) 鹿児島県国際交流協会	鹿児島県国際交流課
第11陣	マレーシア 農業(水産)	21	21	8月30日～9月6日 (8月16日～9月12日)	(社) 青少年育成国民会議	(社) 九州・山口経済連合会	熊本県国際課
第12陣	アセアン混成 経済(貿易)	28	28	8月30日～9月6日 (8月16日～9月12日)			
第13陣				9月23日～10月20日	(社) 青少年育成国民会議	熊本県青年海外協力協会	熊本県国際課
第14陣	中国 経済開発	25	25	10月25日～11月1日 (10月11日～11月7日)			
第15陣				(10月25日～11月21日)			
第16陣	ネパール 教育	10	10	11月22日～11月29日 (11月8日～12月5日)	(社) 国際交流サービス協会	佐賀ユネスコ協会	佐賀県国際交流課
第17陣				(11月23日～12月20日)			
第18陣	中国 教員	24	24	12月5日～12月10日 (11月26日～12月16日)	(社) 日本ユネスコホステル協会	福岡県海外青年招へい事業実行委員会	福岡県国際交流課
第19陣				(1月10日～2月6日)			
第20陣	中南米混成 小中学校教員	30	30	2月1日～2月8日 (1月18日～2月14日)	(社) 青年海外協力協会	同左九州支部	福岡県国際交流課
第21陣				(1月18日～2月14日)			
第22陣				(1月24日～2月20日)			

受入計画 九州国際センター：9グループ208名、全体：75グループ1,682名  
受入実績 九州国際センター：9グループ206名、全体：75グループ1,658名

### 3. 青年海外協力隊事業等ボランティア派遣事業

#### 3-1. 青年海外協力隊事業

青年海外協力隊は、アジア、アフリカ、中近東、中南米、オセアニア、東欧などの開発途上、或いは、市場経済への移行期にある国々に対して、経済・社会の発展のために技術、技能を身につけた心身ともに健全な日本の青年を派遣して、各国の国づくりに協力しています。青年海外協力隊は、現地生活において職場生活と日常生活を途上国の人々と共にすることによって、開発途上国の人々の心情を理解し、お互いの信頼の上に立って国づくりをめざすことを目的としています。

青年海外協力隊の募集選考は都道府県の協力を得て、年2回（春、秋）実施されています。選考は第一次選考（筆記：技術、英語、青年海外協力隊員適性テストの3科目、各都道府県で実施）と、第二次選考（面接：個人、技術、健康診断、東京で実施）があり、第二次選考合格者は、約80日間の派遣前訓練を経て、2年間の任期で開発途上国へ派遣されています。

青年海外協力隊参加にあたっては、訓練、派遣に係る諸経費（支度金、現地生活費、往復航空賃等を含む）、国内積立金（無職で参加の場合）、災害補償費等があり、全て青年海外協力隊事務局が負担しています。また、青年海外協力隊への休職参加が可能になった場合、青年海外協力隊事務局が所属先（地方公共団体・民間）に対し、人件費の一部を補てんする制度や、民間の場合はそのほかに間接経費の補てん制度を設けており、民間からも休職参加が容易に行われるようにしています。

派遣部門は、農林水産、加工、保守操作、土木建築、保健衛生、教育文化、スポーツの7部門から成っており、さらにこれを職種別に分類すると約140種類の多岐にわたっています。

最初の青年海外協力隊派遣は、昭和40年に第一次隊26名が、ラオス、カンボディア、マレーシア、フィリピンの4カ国に派遣されましたが、今日では地域も、アジアの他に中近東、アフリカ、中南米、オセアニア、東欧の全域に拡がり、これまで派遣された隊員実績内訳は、平成13年3月31日現在、全体で72カ国21,826名を数え、九州管内でも、2,858名（福岡976、佐賀149、長崎320、熊本414、大分281、宮崎261、鹿児島457）に達しています。平成12年度の新規派遣隊員数は、143名（福岡52、佐賀4、長崎13、熊本30、大分15、宮崎10、鹿児島19）です。

途上国から増加する要請や高度化する要請内容に対応するため、九州国際センターでは、募集の拡充と応募者の発掘拡大に重点をおき、取り組んでいます。

当センターは、管内（福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島）における主な業務として、募集説明会（春、秋）応募相談、帰国隊員の進路相談、パネル展、帰国隊員報告会、各種講演（大学、高校、中学、専門学校、各種団体）等を新聞等のマスコミ、県及び市町村等の地方公共団体、各県の協力隊を育てる会、OB会等各関係機関の協力を得て行っています。また、当センターには「協力隊24時間テレホン・ファックスガイド」を設置（Tel. 093-671-6354 Fax. 093-671-6368）して、常時相談に応じています。

### (1) 募集説明会

青年海外協力隊平成12年度春募集説明会日程

県名	期日	曜	説明会場	県名	期日	曜	説明会場
福岡	4月13日	(木)	小倉KMMビル 4F 大ホール	福岡	10月16日	(月)	アクロス福岡 円形ホール
	4月14日	(金)	アクロス福岡 大会議室		10月18日	(水)	小倉KMMビル 4F 大ホール
	4月19日	(水)	久留米市民会館 第1会議室		10月24日	(火)	イイツカコミュニティセンター
	4月21日	(金)	天神ビル 会議室11号		10月30日	(月)	アクロス福岡 円形ホール
	4月25日	(火)	小倉KMMビル 4F 大ホール		11月6日	(月)	小倉KMMビル 4F 大ホール
	4月28日	(金)	アクロス福岡 大会議室		11月8日	(水)	アクロス福岡 大会議室
	5月11日	(木)	久留米市民会館 第1会議室		11月13日	(月)	久留米市くるみホール
	5月16日	(火)	アクロス福岡 大会議室		11月15日	(水)	天神ビル 10号会議室
	5月17日	(水)	小倉KMMビル 4F 大ホール		11月18日	(土)	九州国際センター 3階大会議室
佐賀	4月14日	(金)	はがくれ荘 脊振の間	佐賀	10月18日	(水)	佐賀厚生年金休暇センター 蓬来
	4月27日	(木)	佐賀厚生年金休暇センター 蓬来		10月19日	(木)	はがくれ荘 脊振の間
	4月28日	(金)	サンメッセ鳥栖 大会議室1		10月31日	(火)	サンメッセ鳥栖 大会議室1
	5月8日	(月)	はがくれ荘 脊振の間		11月14日	(火)	はがくれ荘 脊振の間
長崎	4月13日	(木)	長崎ブリックホール 会議室4、5	長崎	10月23日	(月)	佐世保市中央公民館 第4講座室
	4月26日	(水)	佐世保市中央公民館 第2講座室		10月24日	(火)	メルカつきまち 会議室
	5月9日	(火)	諫早市民センター(中央公民館)		10月30日	(月)	大村市コミュニティセンター
	5月10日	(水)	メルカつきまち 会議室		11月13日	(月)	メルカつきまち 会議室
熊本	4月13日	(木)	熊本市産業文化会館 第6会議室	熊本	10月18日	(水)	熊本市産業文化会館 第6会議室
	4月20日	(木)	玉名市民会館 第2会議室		10月27日	(金)	八代総合体育館 会議室
	4月26日	(水)	熊本市産業文化会館 第6会議室		10月31日	(火)	玉名市勤労青少年ホーム
	4月27日	(木)	八代総合体育館 会議室		11月7日	(火)	熊本市産業文化会館 第6会議室
	5月16日	(火)	熊本市産業文化会館 第6会議室		11月8日	(水)	本渡勤労者総合福祉センター
大分	4月18日	(火)	中津文化会館 小ホール	大分	11月16日	(木)	熊本市産業文化会館 小ホール
	4月19日	(水)	大分市コンバルホール 大会議室		10月25日	(水)	大分市コンバルホール 大会議室
	5月12日	(金)	大分市コンバルホール 大会議室		11月1日	(水)	佐伯市保健福祉総合センター和楽
宮崎	4月20日	(木)	みやざき会館	宮崎	11月2日	(木)	日田市中央公民館
	4月21日	(金)	延岡市社会教育センター		11月15日	(水)	中津南部公民館
	5月10日	(水)	みやざき会館		11月16日	(木)	大分市コンバルホール 大会議室
	5月11日	(木)	都城市総合社会福祉センター 会議室2		10月26日	(木)	宮崎市中央公民館
鹿児島	4月14日	(金)	鹿児島県市町村自治会館 401号室	鹿児島	10月27日	(金)	延岡市社会教育センター
	4月27日	(木)	鹿屋市中央公民館 第一視聴覚室		11月9日	(木)	宮崎市中央公民館
	4月28日	(金)	国分市シビックセンター 3階大会議室		11月10日	(金)	都城市総合社会福祉センター 会議室2
	5月11日	(木)	川内市国際交流センター 研修室-B		10月19日	(木)	鹿児島県市町村自治会館 403号室
	5月12日	(金)	鹿児島県消防会館 3階大ホール		10月20日	(金)	鹿屋市中央公民館 第一視聴覚室
					11月1日	(水)	国分シビックセンター 3階大研修室
					11月2日	(木)	名瀬市中央公民館
					11月14日	(火)	鹿児島県市町村自治会館 401号室
					11月15日	(水)	川内市国際交流センター 研修室-B

(2) 第一次選考会

各県会場において実施

	春募集 6月11日実施	秋募集 12月10日実施
福岡県	九州ビルディング大ホール・桐の間 (日系青年は三井アーバンホテル)	九州ビルディング大ホール・桐の間
佐賀県	若楠会館 作礼	若楠会館 作礼
長崎県	長崎県勤労福祉会館 3階会議室	長崎県勤労福祉会館 3階会議室
熊本県	NTT熊本会館 阿蘇の間	NTT熊本会館 阿蘇の間
大分県	大分県市町村会館 中・小会議室	大分県市町村会館 中・小会議室
宮崎県	婦人会館 ほうおうの間 はにわの間	婦人会館 ほうおうの間 はにわの間
鹿児島県	城山会館	消防会館大ホール

九州地区選考結果推移表

平12春	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	九州	全国
説明会回数	9	4	4	5	3	4	5	34	266
参集者数	608	66	112	200	104	87	154	1331	12086
応募者数	157	14	23	41	26	38	56	355	3411
受験者数	104	13	15	36	21	20	43	252	2466
1次試験合格者数	43	5	5	23	5	7	23	111	1211
受験者数	39	4	5	23	4	6	22	103	1130
2次試験合格者数	22	1	2	11	3	3	9	51	566
有資格者数	1	1	0	3	0	0	0	5	62
2次合格+有資格者	23	2	2	14	3	3	9	56	628

平12秋	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	九州	全国
説明会回数	9	4	4	6	5	4	6	38	266
参集者数	560	63	89	187	97	97	124	1217	10108
応募者数	190	12	37	52	33	29	60	413	4079
受験者数	143	8	20	37	24	24	45	301	2859
1次試験合格者数	54	3	5	19	9	11	16	117	1261
受験者数	49	3	4	16	8	10	15	105	1153
2次試験合格者数	22	1	1	5	3	5	7	44	531
有資格者数	3	0	0	0	0	0	0	3	27
2次合格+有資格者	25	1	1	5	3	5	7	47	558

(3) 進路相談カウンセラー

昭和61年に九州支部（現九州国際センター）に帰国隊員進路相談カウンセラーが配置されたのに続き、平成5年から、熊本県及び鹿児島県にも進路相談カウンセラーを配置し、九州に再就職を希望する帰国隊員の進路相談等に積極的に取り組んでいます。

(4) 青年海外協力協会（OB会）活動に対する支援

各県の青年海外協力協会（OB会）が開催する総会・講演会・展示会等行事

の実施に関し協力業務を行っています。

(5) 協力隊を育てる会（支援する会等も含む）

福岡県・佐賀県・長崎県・熊本県・大分県・宮崎県・鹿児島県の各県に設立されている、協力隊を育てる会が開催する総会・隊員留守家族会・帰国隊員報告会等行事の実施に関し協力業務を行っています。

### 3-2. シニア海外ボランティア事業

シニア海外ボランティア事業は、40歳から69歳までの幅広い技術や豊かな職業経験を持つ中高年層を対象として、人材を募り開発途上国からの要請に応じたボランティア派遣事業であり、青年海外協力隊事業のシニア版ともいえる事業です。

本事業は、平成2年シニア協力専門家派遣事業として始まり、平成8年にはシニア海外ボランティアと名称を変更し今日に至っています。

本事業は、登録制をもとに実施しておりましたが、平成12年度より年2回（春・秋）の公募制となりました。

分野は、文化、社会、行政・経済、科学・工学、建設・土木、運輸・通信、農林・水産、保健、医療と多岐にわたっています。平成12年度は、全国から323名を派遣しました。九州管内の新規派遣者は20名で次表のとおりです。

平成12年度シニア海外ボランティア派遣実績

	県名	派遣先		要請分野
		国名	派遣期間	
1	福岡	タイ	00. 4. 25-02. 4. 24	パッケージデザイン
2		パラグアイ	00. 4. 25-01. 4. 24	花卉栽培
3		ホンデュラス	00. 4. 26-01. 4. 25	視聴覚メディア
4		インドネシア	00. 10. 19-02. 10. 18	製鉄
5		ネパール	00. 11. 21-02. 11. 20	食品品質管理
6		ネパール	00. 11. 21-02. 11. 20	観光業体質強化
7		ジョルダン	00. 11. 15-02. 11. 14	航空訓練
8		メキシコ	00. 10. 19-02. 10. 18	システムエンジニア
9		サモア	01. 4. 9-03. 4. 8	都市衛生
10		フィジー	01. 4. 9-03. 4. 8	船員教育
11	佐賀	ウルグアイ	01. 4. 3-03. 4. 2	文化
12	長崎	インドネシア	01. 4. 3-02. 4. 3	淡水養殖
13	熊本	マレーシア	00. 10. 18-02. 10. 17	家具製作
14		ホンデュラス	01. 4. 5-02. 4. 5	自動車整備
15	大分	ジョルダン	00. 5. 31-01. 5. 30	地域開発
16		ジョルダン	00. 11. 15-02. 11. 14	都市計画(設計)
17	宮崎	インドネシア	00. 10. 19-02. 10. 18	水産
18		パプアニューギニア	01. 4. 4-03. 4. 3	建設機械
19	鹿児島	野菜栽培	00. 10. 18-02. 10. 17	野菜栽培
20		ホンデュラス	01. 4. 5-02. 4. 5	食品加工

#### 4. 日系社会支援事業

明治元年に日本人の海外移住が始まって以来120余年の歴史を経た今日、その子孫を含め250万人の日系人が南北米を中心に世界各国で活躍しています。

海外移住は個人が自己の能力を発揮するその活躍の場を海外に求めることですが、移住が移住者個人の経済及び技術の海外移転であり、また文化の伝播であること、そして移住者が移住先国の繁栄に大きく寄与している現況などから、人的な国際協力であると言えます。

これまでの海外移住は南米（ブラジル、アルゼンティン、パラグアイ、ボリヴィア）への農業移住が主要を占めていましたが、近年はカナダ、オーストラリアへの技術移住も加わり、さらに、昭和60年度から「海外開発青年制度」が発足し、管内から33名（福岡12名、佐賀1名、長崎4名、熊本5名、大

分1名、宮崎4名、鹿児島6名)の若者が中南米の日系団体のもとで活動しました。

一方、内外情勢の変化に対応するため、当事業団は平成6年度より海外移住事業の再編を行い、移住者の送出国業務を中止することになりましたが、当センターでは管内の関係諸団体の協力を得て次の業務の実施や、支援を行っています。

#### 4-1. 日系研修員の受入れ

日系人を通じた技術協力の一環として、中南米地域の日系人を研修員として日本へ招き、日本の先進技術・知識を習得してもらい、帰国後、有能な人材として日系社会及び地域社会の発展に貢献できるよう、管内の大学、民間団体等において技術研修を実施しました。

平成12年度日系研修員の九州管内受入実績（継続含む）

種別	氏名	性別	出身国	研修機関	研修職種	研修期間
個別長期技術	坂本 泉	男	ヴェネズエラ	九州東海大学	情報処理	99. 7. 13～00. 6. 27
	米倉あゆみ	女	ボリビア	九州東海大学	経営情報システム	00. 4. 10～01. 3. 27
個別短期技術	宮沢 貞雄	男	ブラジル	長野針灸院 (大分市)	東洋医学	00. 7. 17～00. 8. 12
	高崎 精介	男	ブラジル	(医)伊東歯科 (熊本市)	歯学	00. 8. 21～00. 9. 14
	山脇 由佳	女	アルゼンティン	福岡県花卉 農業協同組合	組合の運営と 花の流通機構	00. 8. 21～00. 9. 27
	Alejandro Gosztanyi	男	アルゼンティン	福岡県花卉 農業協同組合	組合の運営と 花の流通機構	00. 8. 21～00. 9. 27
	荒井 満	男	ブラジル	長崎大学	古生物学	00.10.10～00.12.1
	Leo Kei Iwai	男	ブラジル	熊本大学	生体過敏反応 に関する研究	00.11.13～01.2.2
	Tokico Murakawa Moriya	女	ブラジル	産業医科大学	公衆衛生並びに 産業医学分野の 看護学研究	00.11.13～00.12.4

#### 4-2. 日系社会青年ボランティア事業

日系社会青年ボランティア事業は、昭和60年に海外開発青年制度として開始された事業です。中南米諸国への日本人青年の移住を促進することを目的として、平成5年までに約300人を送出した結果100人程の青年の現地定着

を果たしてきましたが、平成6年度に事業の主目的が日系人社会への支援に変更されたことで、平成8年度より日系社会青年ボランティア事業と名称を変更し今日に至っています。

本ボランティアは、毎年1回全国募集を行い、主に農林・水産、工業技術、教育・文化分野での専門技術を有し、ボランティア精神に富んだ20歳～39歳のかたがたを対象に選考を行い、合格者は集中研修の後2年間中南米の現地日本人会や公共・公益的な日系団体に派遣されます。

平成12年度の実績は次のとおりです。

平成12年度 日系社会青年ボランティア九州地区結果推移表

	福岡県	佐賀県	長崎県	熊本県	大分県	宮崎県	鹿児島県	九州
応募者数	25	1	0	4	2	2	8	42
受験者数	20	0	0	4	2	2	8	36
1次試験合格者数	12	0	0	0	1	1	4	18
2次試験合格者数	6	0	0	0	1	0	0	7
繰上合格者数	2	0	0	0	0	0	3	5
最終合格者数	8	0	0	0	1	0	3	12

※平成12年度より日系社会青年ボランティアの募集説明会は、青年海外協力隊と同時開催となっている。

※1次試験は青年海外協力隊と同時に行う。

#### 4-3. 日系社会シニアボランティア事業

日系社会シニア・ボランティアは、日系社会青年ボランティアと同じく中南米の日系人、社会への支援を目的として、優秀な技術を有しボランティア精神にあふれた40歳～69歳までの中高年層を対象として、1年～2年間派遣する制度です。

平成2年度に開始した本事業は公募制により日本語教育、保健衛生・福祉、農業分野について、年1回募集と選考を行っています。

平成12年度は、全国から20名が派遣されました。

九州管内の新規派遣者は、1名で次表のとおりです。

平成12年度 日系社会シニアボランティア派遣実績

	県名	派遣先		指導科目
		国名	団体名	
1	熊本	アルゼンチン	日系農業者団体連絡協議会	産業

#### 4-4. 海外移住家族会総会

平成12年4月27日	福岡県海外移住福岡地区家族会総会	福岡市
平成12年4月28日	両筑地域海外移住家族会総会	浮羽町
平成12年5月23日	福岡県海外移住北九州地区家族会総会	北九州市
平成12年5月29日	福岡県海外移住筑豊地区家族会総会	飯塚市
平成12年7月11日	福岡県海外移住家族会総会	福岡市
平成12年10月27日	両筑地域海外移住協会総会	吉井町
平成12年11月6日	九州各県海外移住及び海外移住家族会 九州ブロック会議	佐賀市
平成13年2月28日	海外福岡県人会世界大会実行委員会設立総会	福岡市

#### 5. 技術協力専門家派遣事業

JICA本部が行っている専門家派遣事業の内、当センターでは関係機関への資料の配布並びに登録希望者への相談、受付及び海外において技術協力活動に従事する意志のある方の一般公募を実施しました。

また各県で組織されているJICA派遣専門家連絡会の活動を支援しました。

##### (1) JICA派遣専門家連絡会の活動

福岡県：JICA情報の発信・地域の国際協力事業への参加・講師の派遣等  
(会員数336名)

佐賀県：JICA情報の発信・地域の国際協力事業への参加・講師の派遣等  
(会員数27名)

長崎県：JICA情報の発信・地域の国際協力事業への参加・講師の派遣等  
(会員数48名)

熊本県：JICA情報の発信・地域の国際協力事業への参加・講師の派遣等  
(会員数50名)

大分県：JICA情報の発信・地域の国際協力事業への参加・講師の派遣等  
(会員数75名)

宮崎県：JICA情報の発信・地域の国際協力事業への参加・講師の派遣等  
(会員数23名)

鹿児島県：JICA情報の発信・地域の国際協力事業への参加・講師の派遣等

(会員数58名)

合計617名

## 6. 小規模開発パートナー事業等

近年、国際協力に対し、「地域との連携」、「市民参加」が期待されています。その実現を目指して現在JICAは、開発パートナー事業と小規模開発パートナー事業を実施しています。九州国際センターにおいても地域の経験、ノウハウを国際協力に活かすべくこの事業を積極的に推進しています。

### 6-1. 開発パートナー事業

自治体やNGO、研究機関などが持つ技術、経験、ノウハウを国際協力に活かすことを目指し、平成11年度から開発パートナーシップ事業が始まりました。採択されたプロジェクトはJICAとの委託契約に基づき実施しています。

平成12年度は、宮崎県のNGO団体「アジア砒素ネットワーク (AAN)」と熊本県のNGO団体「地球緑化の会」からの提案が採択されました。

平成12年度 開発パートナー事業 採択案件

団体名	案件名	国名
アジア砒素ネットワーク	飲料水砒素汚染の解決に向けた移動砒素センタープロジェクト	バングラデシュ
地球緑化の会	省耕起省灌漑有機稲作開発計画	タンザニア

### 6-2. 小規模開発パートナー事業

平成11年度に始まった開発パートナー事業に引き続き、さらに草の根国際協力の裾野を広げるために、今年度より始まったのが小規模開発パートナー事業です。団体規模は問わず、途上国のニーズに対するきめ細かな協力が期待されています。開発パートナー事業と同様に、採択されたプロジェクトはJICAとの委託契約に基づき実施しています。

平成12年度は熊本と福岡にて事業説明会を実施し、管内より8件の応募がありました。そのうち、福岡県の自治体「北九州市水道局」、福岡県のNGO団体「ペシャワール会」、鹿児島県のNGO団体「じゃっど」からの提案が採択さ

れました。

## 説明会

### 1. 熊 本

期 日 平成 12 年 9 月 9 日 18:30~20:30

場 所 熊本市国際交流会館

共 催 熊本県国際交流関係団体連絡協議会、熊本市国際交流振興事業団

参加団体 15 団体

### 2. 福 岡

期 日 平成 12 年 9 月 12 日 18:30~20:15

場 所 福岡市役所北別館

共 催 (財)福岡国際交流協会

参加団体 18 団体

## 平成 12 年度 小規模開発パートナー事業 採択案件

団体名	案 件 名	国 名
じゃっど	鉤虫対策プロジェクト	ラオス
北九州市水道局	同一配水システムの構築を目指す都市への技術・機材支援	カンボディア
ペシャワール会	パキスタン北西辺境州における感染症に関するブライマリーヘルスワーカー教育事業	パキスタン

## 7. 開発協力事業

開発途上国の経済的自立には民間資本の導入が不可欠です。JICAでは、民間企業の海外投資を支援することを通じて、開発途上国の社会基盤の整備、企業振興や輸出促進を図り、その自立的経済発展に貢献することを目的に投融資事業を展開しています。

平成 13 年 3 月下旬に、当センターでは九州各県の海外進出関係企業を対象とした JICA 投融資セミナーを福岡市内で開催し、投融資制度の説明、開発途上国の投資環境についての情報提供を行うと共に個別相談を実施しました。本セミナーには九州・山口 6 県から 16 社が参加しました。



### Ⅲ . 事業實施基盤強化



### Ⅲ. 事業実施基盤強化

#### 1. 広報活動

ODA事業への理解を深め、市民参加型の国際協力を実現するために、多様な広報活動を行いました。

##### 1-1. 広報関連事業

###### 1) 国際協力フェア

- ・「青年海外協力隊を知る一日」共催  
主 催 佐賀県  
期 日 7月16日  
場 所 アバンセ（佐賀）
- ・「ユースフォーラム」共催  
主 催 海外協力センター・福岡  
期 日 8月18日～20日  
場 所 福岡市立油山青年の家（福岡）
- ・「世界をよく知るセミナー」協力  
主 催 （財）熊本市国際交流振興事業団  
期 日 9月2日  
場 所 熊本市国際交流会館（熊本）
- ・「世界で夢探し！」  
主 催 九州国際センター  
期 日 9月23日  
場 所 NTT夢天神ホール（福岡）
- ・「北九州国際交流ウィーク」  
主 催 北九州国際交流ウィーク実行委員会  
期 日 9月30日～10月8日  
場 所 北九州国際交流村ゾーン（福岡）
- ・「国際協力フェア（地球生活体験学習）」  
主 催 九州国際センター  
期 日 10月7日  
場 所 九州国際センター（福岡）

- ・「地球市民どんたく」共催
  - 主 催 「地球市民どんたく」実行委員会、(財)福岡国際交流協会
  - 期 日 9月30日、10月14、15日
  - 場 所 天神ビル、ソラリアプラザ・ゼファ (福岡)
- ・「ながさき国際協力・交流フェスティバル」協力
  - 主 催 (財)長崎県国際交流協会、ながさき国際交流・協力フェスティバル実行委員会
  - 期 日 10月29日
  - 場 所 にちらん広場 (長崎)
- ・「鹿児島地球人まつり2000」参加
  - 主 催 (財)鹿児島県国際交流協会
  - 期 日 11月18、19日
  - 場 所 鹿児島港本港区中央緑地 (Bゾーン) (鹿児島)
- ・「開発教育地域セミナーin大分」
  - 主 催 「開発教育地域セミナーin大分」実行委員会
  - 期 日 2月24、25日
  - 場 所 OASISひろば21 (大分)
- ・「かごしま地球市民教育フォーラム」共催
  - 主 催 地球市民教育ネットワーク鹿児島
  - 期 日 2月25日
  - 場 所 鹿児島市教育総合センター (鹿児島)
- ・「飛び出そう世界へ!～協力隊と世界の音楽～」
  - 主 催 九州国際センター
  - 期 日 3月3日
  - 場 所 コンパルホール (大分)

## 2) ODA民間モニター

日本が実施するODAの現場を一般市民に視察していただき、率直な意見、提言、評価をいただくことを目的に、平成11年度から実施されている事業です。国際協力推進協議会 (APIC) との共催により、募集、派遣を行いました。九州地区のモニターの応募状況および実施内容は下記のとおりです。

応募者数 466名 (全国5,440名)

派遣期間	平成12年10月7日～14日
派遣国	バングラデシュ
参加者	14名
帰国報告会	平成12年10月28日（九州国際センター）

### 3) 中高生・市民海外研修の支援

海外研修プログラムの中で現地での青年海外協力隊員活動現場視察等に対し便宜供与を行いました。また、事前の研修に職員を派遣し、途上国事情や国際協力の現状について講演を行ったり、情報提供を行ないました。

- ・鹿児島青少年国際協力体験事業
- ・青少年バンコク親善訪問
- ・タイ環境インフラ現地調査
- ・鹿児島県議会議員海外行政視察
- ・国際協力フォローアップ事業
- ・熊本・アジアパートナーシップ事業
- ・熊本県立大学総合管理学部タイ研修旅行

### 1-2. 開発教育・国際理解教育の推進

JICAではエッセイコンテストをはじめとして、国際協力について考える場を学校教育現場等に提供しています。また、日本のODA（政府開発援助）や開発途上国に関する情報提供、青年海外協力隊員OB・OGなどの講師派遣を通して、開発教育・国際理解教育支援を実施しています。

今年度からは、当センターの研修員との交流プログラムを北九州市内を中心に開始し、「総合的な学習」の本格的な導入に向けて、積極的な支援活動を行っています。

#### 1) 高校生エッセイコンテスト

九州各県から2,036点（全国14,004の14.5%）の応募があり、選考の結果、審査員特別賞1名（宮崎県宮崎大宮高校3年池江祥乃さん）をはじめ32作が入賞しました。九州各地の入賞者には、職員が各学校を訪問し、賞状授与を行いました。

## 2) 中学生エッセイコンテスト

九州各県から 1,718 点（全国 15,812 の 10.9%）の応募があり、選考の結果、熊本大学教育学部附属中学校寺本智美さんが準特選に選ばれ、副賞として中国への海外研修に参加しました。そのほかにも、審査員特別賞 3 名をはじめ 22 作が入賞しました。賞状授与のための各中学校訪問では、間もなく導入される「総合的な学習」の「国際理解教育」の内容について現場の先生方と意見交換を行い、途上国に関する情報や国際協力に関する情報の提供を行いました。

## 3) 高校生 ODA 実体験プログラム

九州各県から 5 校 26 名の高校生及び引率の先生方が ODA 実体験プログラムに参加しました。このプログラムでは、ゲームやワークショップを通じて「国際協力」や「貧困」について考えたり、研修員との交流を体験しました。

期 日 平成 12 年 8 月 16 日～18 日

場 所 J I C A 九州国際センター

参加者 九州地区の高校 5 校（26 名）の教師及び生徒

（宮崎県立日向高等学校、熊本県立熊本工業高等学校、鹿児島県立阿久根農業高等学校、大分県立大分雄城高等学校、長崎県立宇久高等学校）

## 4) 中学教師・高校教師の海外研修派遣

授業やクラブ活動で開発教育を実施している先生方が、開発途上国の現状や国際協力の現場を視察して、その体験を授業に生かすことを目的に、九州地域から中学校 5 校の担当教師を中国へ、高校 3 校の担当教師をタイへ派遣しました。

### ・中国研修（中学校教師対象）

佐藤 みどり教諭（熊本県宇土市立鶴城中学校）、廣目 美由紀教諭（福岡県田川市立後藤寺中学校）、植木 章江教諭（長崎県時津町時津中学校）、金子 マユミ教諭（福岡県八女市立福島中学校）、富田 英史教諭（福岡県大川市立大川中学校）

### ・タイ研修（高校教師対象）

岡村 真由美教諭（長崎県立波佐見高等学校）、栗屋 勉教諭（宮崎県立宮崎工業高校）、村田 誠也教諭（熊本県立荒尾高等学校）

#### 5) JICA職員及び協力隊OB・OG等の講師派遣

- ・サーモンキャンペーン 27回実施
- ・福岡県「教室から世界をのぞこうプログラム」 161回実施
- ・鹿児島県「留学生と協力隊OBが先生」 41回実施

#### 6) JICA研修員との国際交流活動

北九州市内の小中学校を中心に、学校のある第一・三土曜日に当センターに滞在する研修員との交流プログラムを19回実施しました。研修員による国の紹介や、生徒からの日本文化紹介、ゲーム交流などを通じて、文化交流・国際理解学習を行いました。

#### 7) 各県高等学校国際教育研究協議会への支援

管内の高等学校により組織される本協議会に対して、国際教育や開発教育の側面的支援を行いました。具体的には、各地での夏期・秋期（生徒）研修会、弁論大会、研究発表会、学校（文化）祭等に対し、情報提供、講師派遣、写真パネルの貸し出し等を行いました。

#### 8) 国際協力市民講座の開催

「かごしま国際理解講座」を（財）鹿児島国際交流協会との共催により実施しました。

第1回	5月13日	講師	小川 景一氏	元協力隊員
第2回	6月10日	講師	野田 伸一氏	JICA専門家
第3回	9月9日	講師	汐月 卓也氏	元シニア海外ボランティア
第4回	12月11日	講師	園田 智子氏	元協力隊員

### 1-3. 平成12年度所長講演等

	日付	行事名	演題	実施機関	会場	参加者	受講者人数
1	平成12年6月7日	日本ユニセフ協会会員総会にて講演	我が国のODAの現状について	(財)日本ユニセフ協会北九州支部	西日本銀行北九州支店4階ホール	会員	100
2	平成12年6月10日	第112階クロスロード・コミュニケーションにて講演	東チモールの現状について	JOCA北九州支部、九州国勢センター、(財)北九州国際交流協会	九州国際センター大会議室	一般	70
3	平成12年6月16日	平成12年度福岡県高等学校PTA指導者研修にて講演	国際社会に生きる日本人	福岡県企画庁教育企画部	福岡県立社会教育総合センター	高等学校長・PTA	200
4	平成12年6月24日	鹿児島県青少年国際協力体験事業事前説明会にて講演	国際協力について	鹿児島県青少年国際協力体験事業実行委員会	国際交流プラザ	中・高校生、父兄	50
5	平成12年7月6日	環境国際協力・環境ビジネス講演会	国民参加型専門家派遣及び開発パートナー事業について	北九州環境研究会	アジア太平洋インポートマート	会員及び市民	100
6	平成12年7月8日	中学・高校教師海外研修説明会	我が国のODAの現状	九州国際センター	九州国際センター	研修参加教諭	8
7	平成12年7月29日	宮崎県海外協力協会定期総会講演	最近の開発援助の動向について	宮崎県海外協力協会、青年海外協力隊事務局、九州国際センター他	ホテルプラザ宮崎	会員	50
8	平成12年8月2日	アジア太平洋環境大臣会議 in 北九州シンポジウム	北九州市との連携協力について	地球環境戦略研究機関	北九州国際会議場	市民	60
9	平成12年9月1日	アジア太平洋環境大臣会議 in 北九州	JICAとNGOとの連携協力、参加型協力について	ESCAP	北九州国際会議場	NGO関係者、市民	60
10	平成12年9月25日	中国国別特設「技術協力促進」コース講義	中国国別特設「技術協力促進」コース講義	国際サービスセンター	九州国際センター	中国研修員	15
11	平成12年9月30日	地球市民どんたく2000	NGOと地域の連携国際協力について	「地球市民どんたく2000」実行委員会	天神ビル	NGO関係者、市民	150
12	平成12年11月10日	KITA創立20周年記念パネルディスカッション	21世紀におけるKITAの役割	KITA	北九州国際会議場	一般市民	250

	日付	行事名	演題	実施機関	会場	参加者	受講者 人数
13	平成12年11月19日	新日鐵主任連 合会九州国際セ ンター訪問	ODAとJICA の役割	新日本製鐵主任連 合会	九州国際セン ター	民間企業	50
14	平成13年2月7日	鹿児島県職員ラ イフプランセミ ナー	生き生き人生海外 ボランティア	鹿児島県	新指宿ホテル	鹿児島県 職員	119
15	平成13年2月8日	鹿児島県職員ラ イフプランセミ ナー	生き生き人生海外 ボランティア	鹿児島県	新指宿ホテル	鹿児島県 職員	95

件数 15件 受講者総数 1,377人

## 2. 図書室の利用状況

### (1) 利用案内

開室時間 月～金 10:00～19:00 (外部利用は、11:00～18:00)

休室日 土・日、祝日、8月1日、12月28日～1月4日

利用者 (貸出) センター受入研修員、センタースタッフ、他関係機関  
(閲覧) 一般利用者

\* 学校等団体へは、JICAの広報ビデオの貸出を行って  
います。

平成12年度の入室者総数は、3,590人でした。

### (2) 所蔵資料構成

研修員を対象に、技術工学、地域・社会事情、日本文化、参考図書を中心  
に収集しています。また、日本人を対象に、ODA・NGO・国際理解に関  
するもの、途上国事情、参考図書を中心に収集しています。

平成12年度末現在の所蔵資料数は、9,547点。うちビデオ1,056点、語学カ  
セット52点、CD-ROM45点、FD2点、地図84点、雑誌57タイトル、JICA  
刊行物1,704点、研修コーステキスト135点です。他関係機関のニューズ  
レター等も保有しています。

## 洋書

- ・技術／工学

非破壊検査技術、工業規格、生産工学、機械工学、電子工学、自動制御、コンピュータ関係、金属工学（鉄鋼、溶接）、化学工業、熱工学など。

- ・産 業

水産業（養殖）

- ・自然科学

数学、力学、物理学、生態学、医学（免疫学、歯学、熱帯医学、公衆衛生）

- ・各地域に関するもの

日本の歴史、地理、政治・経済・社会文化事情。研修員の出身国に関するもの。

- ・ペーパーバック（フィクション、ノンフィクション）

- ・語 学

各国の言語辞書（英語／仏語／西語／葡語／アジア地域言語／ロシア、東欧地域言語）

- ・参考図書

技術工学、自然科学、他各種百科事典。

## 和書

洋書とほぼ同じ内容です。その他、途上国事情に関するものや、ODA・NGO、国際理解に関するものを多く揃えています。

## 視聴覚資料

- ・ビデオ

英語版では、日本紹介ビデオ（歴史、社会文化事情、伝統行事、日本語教材）、他に研修コースに関連する教材ビデオ（主に、生産工学、環境工学、機械工学など）があります。

日本語版では、JICA事業やODA事業を紹介した広報ビデオがあります。

- ・DVD

今年度より、DVDプレイヤー1台が導入されました。現在、所蔵してい

るソフトは、NHK出版の「映像の世紀」全11巻です。

・語学カセットテープ

英語、仏語、西語、葡語などの自習用テープ。

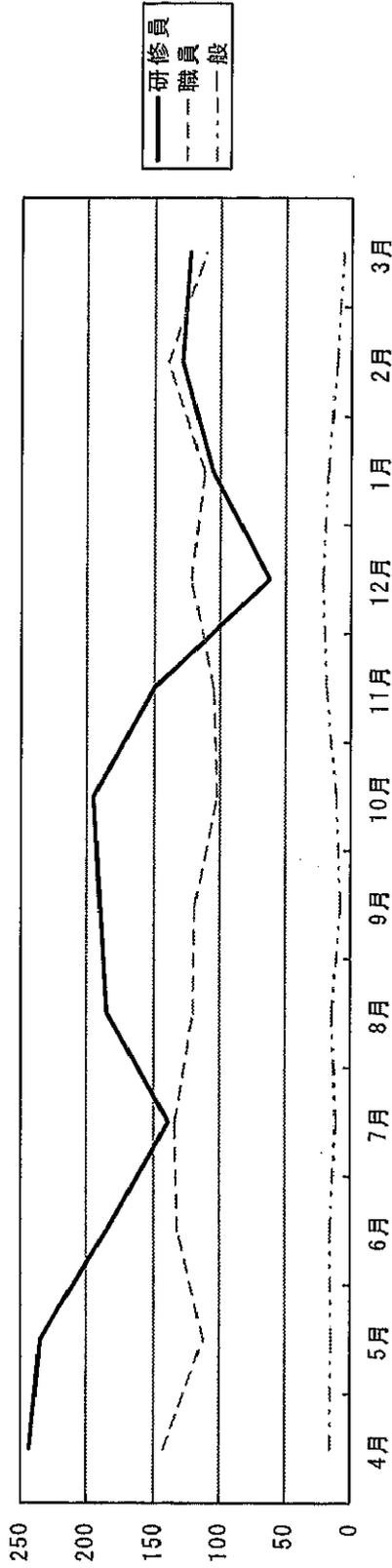
雑 誌

英語版では、研修コースに関連する医学・技術／工学などの専門誌と、地域研究誌、経済誌、外交専門誌、自然科学誌があります。

日本語版では、JICAをはじめ各関係機関が発行する国際協力関係誌や、経済誌、自然科学誌があります。

平成12年度 図書室利用実績 (2000年4月～2001年3月)

図書入室数 (2000年4月～2001年3月)



(2000年4月～2001年3月)

年・月	開館日数 (日)	研 修 員		ス タ ッ プ		一 般		合 計	
		利用者数	貸出冊数	利用者数	貸出冊数	利用者数	貸出冊数 (冊)	利用者数 (人)	貸出冊数 (冊)
4月	20	243	291	143	44	15		401	335
5月	20	235	251	112	53	14		361	304
6月	22	185	228	132	87	15		332	315
7月	20	139	187	134	58	11		284	245
8月	22	185	282	120	34	14		319	316
9月	20	190	314	119	78	8		317	392
10月	21	195	166	102	28	11		308	194
11月	21	195	166	102	28	11		308	194
12月	20	62	48	122	73	21		205	121
1月	19	106	129	112	53	17		235	182
2月	19	129	192	140	69	11		280	261
3月	21	123	185	111	76	6		240	261
累 計	245	1987	2439	1449	681	154		3590	3120
平 均 (月)	20.42	165.58	203.25	120.75	56.75	12.83		299.17	260

平成12年度 図書資料数報告

九州国際センター図書室

(平成13年3月末現在)

資料分類	和	洋	計	総記	人文科学	社会・産業	経済・開発	政治・法律	自然科学	技術・工学	運輸・交通	農林水産業	医学	計
一般図書	3618	4622	8240	426	3094	1033	810	350	269	1703	35	298	222	8240
雑誌	14	43	57	2	9	3	9	1	2	27	0	1	3	57
地図	25	59	84	0	0	84	0	0	0	0	0	0	0	84
ビデオ	253	803	1056	9	243	201	185	18	114	217	8	14	47	1056
カセットテープ	32	20	52	0	50	0	0	0	2	0	0	0	0	52
CD-ROM	6	39	45	0	4	0	0	0	0	3	1	0	37	45
DVD	11	0	11	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	11
FD	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
合計	3959	5588	9547	437	3411	1321	1004	369	387	1950	44	313	311	9547

資料分類	和	洋	計
JICA資料	1509	195	1704
テキスト	0	135	135
合計	1509	330	1839

- 注1) 「雑誌」に限り、H12年度に受け入れたタイトル数をカウントしています。  
 \*雑誌については、登録しておらず保管年数5年を過ぎたものは処分しているため。  
 注2) 「地図」は、折り畳み式地図のことです。冊子体の地図は「一般図書」に含まれます。

### 3. 研修支援

#### 3-1. 研修員の福利厚生

##### 3-1-1. 研修員の健康管理

###### 1. 健康診断

健康診断受診対象者は6ヶ月以上の滞在者となっており、平成12年度の健康診断受診者は16名でした。(健康診断実施機関：産業医科大学)

###### 2. 健康相談室

当センター内には健康相談室があり、嘱託医師及び看護婦が研修員の健康相談に応じています。平成12年度の相談実績は、延べ192名でした。

平成12年度九州国際センター健康相談室利用者数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	11	7	4	14	8	20	18	13	3	3	9	2	112
外科													0
皮膚科	2	3	4	7		4	6	4		2	3		35
耳鼻科	1	1	1		1	1	1			1	1		8
整形外科	2	1		2	1		2	2		2	1	3	16
眼科					1		1	1					3
歯科				2									2
婦人科													0
肛門科		1											1
泌尿器科													0
精神科			3				1	2		2	3	1	12
その他					2		1						3
合計	16	13	12	25	13	25	30	22	3	10	17	6	192

### 3. 外部医療機関受診者件数

当センターの健康相談室の指導を受けた研修員及び九州国際センター以外に滞在している研修員は、外部の診療期間で診療を受けます。平成12年度の通院実績は、延べ306名でした。

平成12年度外部医療機関受診者件数

診療科	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
内科	5	3	3	8	12	12	20	8	1	1	6	14	93
外科	2		4	2	3	1	1			2			15
皮膚科	2	2	4	9	4	4	6		1	3	4	4	43
耳鼻科	1	1	1		2	3	8	4					20
整形外科	2	6	1	4	9	5	9	6	1	5	4	3	55
眼科		1	2	3		1	6	3		1		1	18
歯科	4	7	1	2	1	4	3				2	1	25
婦人科						3		1					4
肛門科			1										1
泌尿器科					4	2	2	1			2		11
精神科					3	3	2	5			1		14
その他		2	1	2			1					1	17
合計	16	22	18	30	38	38	58	28	3	12	19	24	306

### 3-1-2. 交 流 事 業

研修員のレクリエーションと地元市民との交流促進を目的として、関係各機関のご協力を得て次の行事を実施しました。

#### (1) K I C 主催行事

No.	行事名	実施日	実施場所	参加研修員数
1	端午の節句飾り	4/7～5/5	九州国際センター	—
2	業務体験セミナー	5.13	九州国際センター	16
3	七夕飾り	7/1～	九州国際センターリエンションルーム	—
4	わっしょい百万夏祭り踊り講習会	7/26・8/2	九州国際センター体育館	在館全員
5	わっしょい百万夏祭り	8.6	小倉北区	在館全員
8	国際親善の集い	10.6	九州国際センター体育館	在館全員
9	国際協力プログラム	10.7	九州国際センター	当日参加
10	門松飾り	年末年始	九州国際センター	—
11	雛人形飾り	2/3～3/3	九州国際センター	—
12	高校生との交流会	3.10	九州国際センター	11

#### (2) ホームビジット・ホームステイ

##### (財) 北九州国際技術協力協会主催

No.	(参加研修コース名)	実施日	実施場所	参加研修員数
1	ホームビジット (非破壊検査技術・トコ/エネ/保管理)	4.15	ホストファミリー宅	13
2	ホームビジット (プラントメンテナンス技術・プラント保全用部品)	5.20	ホストファミリー宅	12
3	ホームビジット (日墨交流・産業環境対策)	6.10	ホストファミリー宅	11
4	ホームビジット (鋼材の加工と加工特性・設備診断技術)	7.22	ホストファミリー宅	16
5	ホームビジット (自動制御・フリクション/環境)	8.26	ホストファミリー宅	17
6	ホームビジット (産業医学・産業廃水処理技術)	9.23	ホストファミリー宅	18
7	ホームビジット (生活排水処理技術・大気汚染モニタリング実習)	10.28	ホストファミリー宅	18
8	ホームビジット (ハイパシ機械制御・生産性向上技術開発)	12.9	ホストファミリー宅	14
9	ホームビジット (保安全管理)	2.24	ホストファミリー宅	9
10	ホームビジット (エネルギー管理・設備のリノベ)	3.17	ホストファミリー宅	17

##### (財) 北九州国際交流協会主催

No.		実施日	実施場所	参加研修員数
1	ホームビジット	4.23	ホストファミリー宅	12
2	ホームビジット	6.24	ホストファミリー宅	9
3	ホームビジット	9.24	ホストファミリー宅	18
4	ホームビジット	10.29	ホストファミリー宅	20
5	ホームビジット	11.24	ホストファミリー宅	12
6	ホームビジット	2.25	ホストファミリー宅	15
7	ホームビジット	3.24	ホストファミリー宅	13

## (3) その他の交流事業

No.	行事名	実施日	実施場所	主催（招待）者	参加研修員数
1	さくら祭り	4.2	さくら通り	JICA	58
2	クロスロード・コミュニケーション	4.8	KICダイニング	青年海外協力協会	47
3	プロ野球観戦	4.16	福岡ドーム	JICA	6
4	西日本工業倶楽部の夕べ	4.1	西日本工業クラブ	KITA・西日本工業クラブ・戸畑区クラブ	22
5	地球クラブ交流会	4.22	下関市長府	地球クラブ	6
6	BRAZIL 500 ANOS	5.4	早良市民センター	ブラジル文化協会	当日参加
7	則松小学校訪問	5.6	則松小学校	則松小学校	2
8	クロスロード・コミュニケーション	5.8	KICダイニング	青年海外協力協会	68
9	サッカー試合	5.14	本城サッカースタジアム	紀太プログラム・オフィサー	3
10	菊陵中学校訪問	5.20	菊陵中学校	菊陵中学校	5
11	日本文化紹介・竹細工	5.21	国際村交流センター	北九州国際交流協会（K I A）	2
12	バスハイク	5.27	佐理	KITA・国際プロミス北九州	36
13	フォスター・ペアレンツ懇親会	5.28	門司	北九州フォスター・ペアレンツ協会	3
14	SONGS OF THE WIND	5.28	響ホール	北九州市教育文化事業団	9
15	響ホールフェスティバル	6.1	北九州市立響ホール	北九州市立響ホール	10
16	世界の夕べ	6.3	ミックスESTA	北九州大学アジア研究センター	22
17	響ホールフェスティバル	6.3	北九州市立響ホール	北九州市立響ホール	3
18	クロスロード・コミュニケーション	6.10	KICダイニング	青年海外協力協会	31
19	地球クラブ交流会	6.10	門司	地球クラブ	2
20	青山小学校訪問	6.17	青山小学校	青山小学校	6
21	さくら保育所交流会	6.24	さくら保育所	さくら保育所	3
22	平野小学校訪問	7.1	平野小学校	平野小学校	2
23	クロスロード・コミュニケーション	7.8	KICダイニング	青年海外協力協会	39
24	九国大文化祭お茶会	7.9	九国大	九国大煎茶研究会	当日参加
25	折尾西小学校訪問	7.15	折尾西小学校	折尾西小学校	8
26	高須 中学校訪問	7.15	若松中学校	若松中学校	8
27	ビアパーティー	7.19	北九州プリンスホテル	北九州21会	12
28	バスハイク	8.2	平尾台	KITA・国際プロミス北九州	16
29	ESCAPパレード	8.5	小倉市内	北九州市環境局	22
30	盆踊り	8.15	西本町公園	前田第五自治会	当日参加
31	ジャズ・フェスティバル	8.19	若松市民会館	若松でジャズを開く会	11
32	国際交流2000	8.25	篠栗	青少年国際村組織委員会	5
33	さくら保育所交流会	8.26	さくら保育所	さくら保育所	7
34	こたけ納涼祭り	8.26	小竹	こたけ納涼祭り2000実行委員会	15
35	国際交流フェスティバル	8.27	田川	糸田町教育委員会	15
36	プロ野球観戦	9.2	福岡ドーム	JICA	9
37	カローリング	9.6	八幡公民館	八幡公民館	2
38	クロスロード・コミュニケーション	9.9	KICダイニング	青年海外協力隊	59
39	馬頭琴演奏会	9.15	KIC中庭	北九州国際交流協会（K I A）	当日参加
40	バーベキューパーティー	9.16	門司	地球クラブ	6
41	竹末小学校訪問	9.16	竹末小学校	竹末小学校	10
42	国際交流卓球大会	9.30	レディース八幡	レディース八幡	当日参加
43	プロ野球観戦	10.1	福岡ドーム	JICA	4

No.	行事名	実施日	実施場所	主催（招待）者	参加研修員数
44	グランド・ゴルフ	10.7	尾倉中学校	北九州国際交流協会（KIA）	7
45	カリブの風コンサート	10.7	響ホール	北九州市立響ホール	35
46	茶の湯	10.8	国際村交流センター	北九州国際交流協会（KIA）	7
47	日本舞踊	10.8	国際村交流センター	北九州国際交流協会（KIA）	17
48	小倉城祭り	10.15	小倉城	まちづくりジャンボリー実行委員会	当日参加
49	舞の里小学校訪問	10.21	舞の里小学校	舞の里小学校	6
50	竹末小学校訪問	10.21	竹末小学校	竹末小学校	8
51	マスター・ペアルック懇親会	10.29	門司	北九州マスター・ペアルック協会	4
52	福岡バスツアー	11.3	南久留米／甘木	（財）福岡県国際交流センター	40
53	起業祭パレード	11.5	中央町周辺	まつり起業祭（八幡ロータークラブ）	38
54	起業祭交流会	11.5	KIUダイニング	まつり起業祭（八幡ロータークラブ）	38
55	知識ロード・コミュニケーション	11.13	KICダイニング	青年海外協力隊	56
56	芦屋町親善パーティー	11.18	芦屋町	芦屋町国際交流協会	29
57	八稚児小学校訪問	11.18	八稚児小学校	八稚児小学校	10
58	皿倉小学校学芸会	11.19	皿倉小学校	皿倉小学校	当日参加
59	KIU学生との交流会	11.21	KICダイニング	九州国際大学	1
60	西日本工業倶楽部の夕べ	11.22	西日本工業クラブ	KITA・西日本工業クラブ・（財）知多ロータークラブ	32
61	則松小学校訪問	12.2	則松小学校	則松小学校	2
62	曾根東小学校訪問	12.2	曾根東小学校	曾根東小学校	3
63	サッカー試合	12.3	陣山グランド	F.C.AVENTURE	当日参加
64	さくら会ファミリーパーティー	12.3	千代公民館	さくら会	3
65	知識ロード・コミュニケーション	12.9	KICダイニング	青年海外協力隊	20
66	海峽地区親善パーティー	12.9	海峽メッセ	下関ユネスコ協会	4
67	さくら保育所 餅つき	12.9	さくら保育所	さくら保育所	1
68	サッカー試合	12.9	陣山グランド	F.C.AVENTURE	当日参加
69	古前小学校訪問	12.16	古前小学校	古前小学校	4
70	バス・ツアー	1.2	マリンワールド	JICA	23
71	知識ロード・コミュニケーション	1.13	KICダイニング	青年海外協力隊	33
72	New Year Party	1.20	高見公民館	高見フレンド	6
73	青山小学校訪問	1.20	青山小学校	青山小学校	5
74	朽網小学校訪問	2.3	朽網小学校	朽網小学校	8
75	小竹西小学校訪問	2.3	小竹西小学校	小竹西小学校	8
76	バス・ハイク	2.3	秋吉台	KITA	29
77	さくら保育所交流会	2.10	さくら保育所	さくら保育所	15
78	知識ロード・コミュニケーション	2.10	KICダイニング	青年海外協力隊	46
79	光貞台小学校交流会	2.17	光貞台小学校	光貞台小学校	10
80	大蔵小学校交流会	2.17	大蔵小学校	大蔵小学校	18
81	則松中学訪問	3.3	則松中学	則松中学	2
82	和紙人形	3.4	国際村交流センター	北九州国際交流協会（KIA）	6
83	芦屋国際交流茶会	3.10	芦屋町	芦屋町国際交流協会	15
84	知識ロード・コミュニケーション	3.10	KICダイニング	青年海外協力隊	53
85	門司北高校訪問	3.17	門司北高校	門司北高校	1
86	バスツアー	3.25	マリンワールド	JICA	33

#### (4) 定期的交流事業

No.	行事名	実施日	実施場所	主催（招待）者	参加研修員数
1	インディアカ	月2回	KIC体育館	八幡東インディアカ協会	毎回10名程度
2	バトミントン	毎週木曜	KIC体育館	九州国際センター	毎回5名程度

#### 3-2. 講師のための英語研修

本研修は、技術研修の効果を高めるため、当センター所管の研修に従事する講師等を対象に行うものです。平成12年度の受講者数は、中級49名及び上級10名、計59名でした。

#### 〔平成12年度JICA英語研修実績〕

レベル	グループ	期間	回数	研修委託先	受講者数
中級	A	2000. 6. 19～2000. 6. 23	4	(株)インタラック	12
	B	2000. 6. 26～2000. 6. 30	4	〃	12
	C	2000. 7. 3～2000. 7. 7	4	〃	12
		2000. 9. 5～2000. 11. 9	20	〃	13
上級		2000. 9. 1～2000. 11. 17	20	〃	10



#### IV. 九州国際センターの施設運営と予算



## IV. 九州国際センターの施設運営と予算

### 1. 施設の概要

#### (1) 所在地

住所 福岡県北九州市八幡東区平野2丁目2番1号  
郵便番号 805-8505  
電話番号 093-671-6311(代)  
FAX番号 093-663-1350

#### (2) 建物規模

構造 本館 鉄筋コンクリート造  
地上3階地下1階  
宿泊棟 鉄筋コンクリート造  
地上6階  
敷地面積 13,000㎡  
建築面積 4,330㎡  
延床面積 10,906㎡

#### (3) 主要施設

##### (本館) 管理・研修棟

1階 ロビー、フロント、食堂、図書室、所長室、事務室、応接室、  
会議室  
2階 セミナールーム、講師控室、小会議室、研修監理員室  
3階 大会議室、セミナールーム、実習室、コンピュータールーム、  
オリエンテーション/ブリーフィングルーム

##### (宿泊棟)

1階 ラウンジ、飲み物等自販機、オーディオルーム、健康相談室、  
和室、タイプ室  
2～6階 宿泊室(145室、150ベッド)  
全室バストイレ、電話(内線)、テレビ付  
各階に洗濯、乾燥機、アイロン室、給湯器、製氷器  
3階および5階に自販機

シングル 140室 (18㎡/室)

ツイン 5室 (33㎡/室)

(体育館兼講堂)

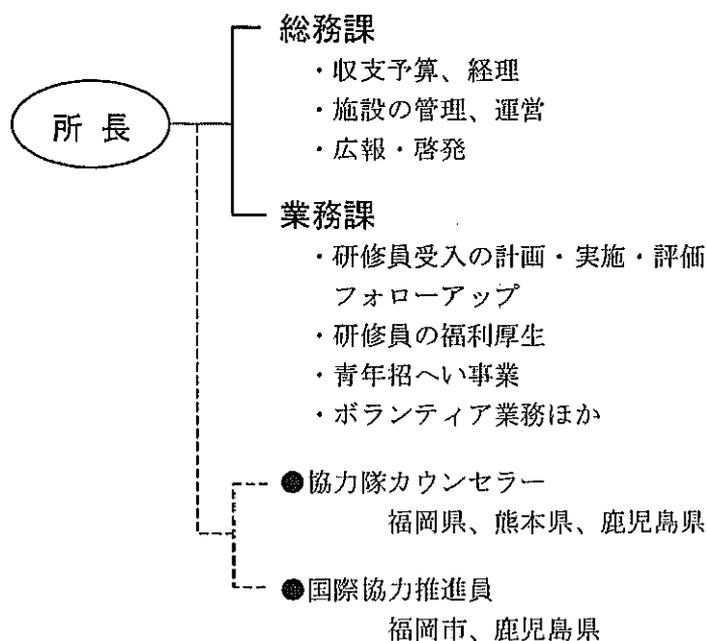
1階 バレーボール、バスケットボール、卓球、バトミントン、インドアサッカー設備、各種アスレチック設備、映写施設付設／テニスコート1面あり (屋外)

(庭園) 桜、ツツジ、アラガシ、ツバキ等の樹木に囲まれた芝生があり、四季折々に小鳥のさえずりが聞こえる。

## 2. 組織と業務分掌

### (1) 組織

当センターには、所長の下に総務課と業務課が置かれています。



### (2) 業務分掌

総務課：センターの運営に関する総括業務およびJICAの広報、開発教育、小規模開発パートナー事業、財務・会計、文書の整理、センター運営規則管理、不動産・施設・物品の管理、研修員の宿泊管理

業務課：研修計画の作成および研修の実施・評価に関する業務、技術研修の計画作成・実施・監理・評価、日本語研修の計画・実施・評価、研修員に対するオリエンテーションの計画・実施・評価、研修教材の

開発・管理、研修員の生活指導・相談・福利厚生、青年招へい事業の地方プログラムの実施、青年海外協力隊・シニア海外ボランティアに関する相談、募集および選考、帰国隊員への進路相談業務、海外日系社会に対する支援業務、技術協力専門家派遣事業、開発投融資業務、国際緊急援助隊事業

\*①ブリーフィング、オリエンテーション、日本語研修及び②建物等の管理・運営業務については、次の外部組織へ委託し、実施しています。

①財団法人日本国際協力センター

②第一建築サービス株式会社

### 3. 宿泊利用実績

平成12年 月別利用実績表

月 区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
延利用 人/日	2,231	2,670	2,401	2,691	3,110	3,763	3,877
利用率 (%)	51.3	59.4	55.2	59.9	69.2	86.5	86.3

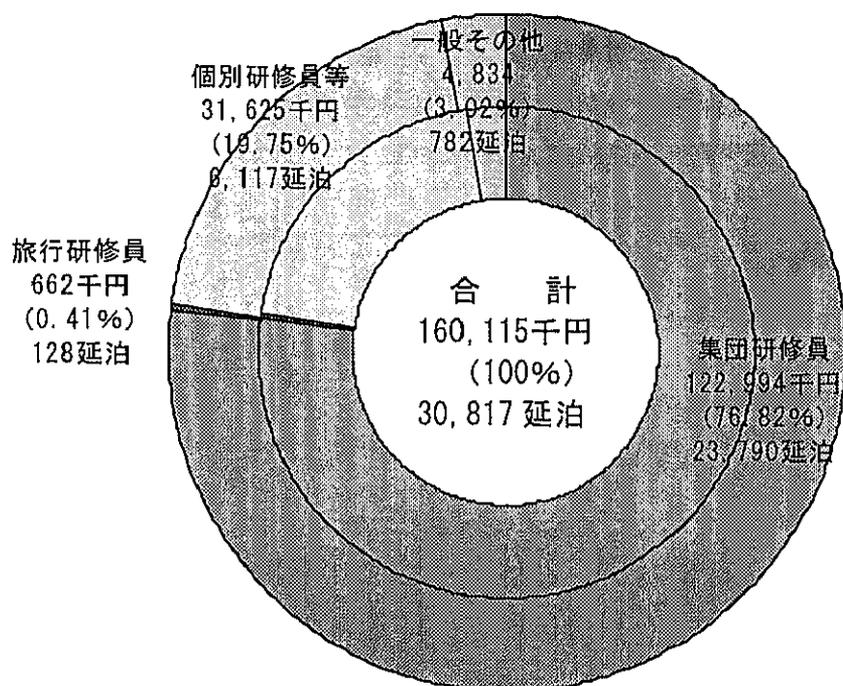
月 区分	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
延利用 人/日	3,348	1,036	1,415	2,336	1,939	30,817	2,568
利用率 (%)	77	23	31.5	57.5	43.1	—	58.2

#### 4. 平成12年度収支予算実績

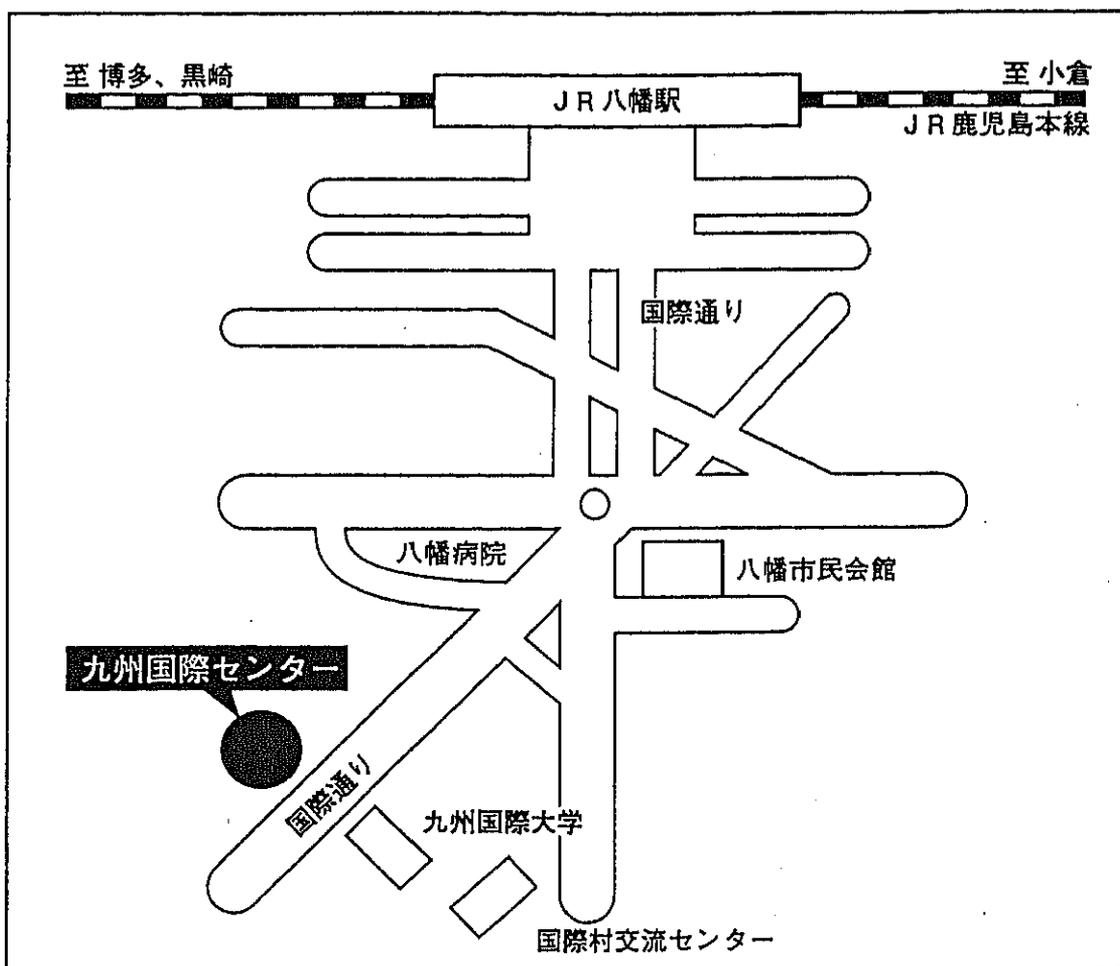
(単位：千円)

科 目	金 額	備 考
(収 入)	208,536	
施 設 利 用 収 入	208,357	※内訳は下図参照
雑 収 入	179	宿 泊 料 160,115
運 営 補 助 収 入		施 設 利 用 料 48,242
(支 出)	1,660,690	
事 業 費	1,363,906	
出資金等施設整備費		
管 理 費	88,249	
施 設 運 営 費	208,535	

※宿泊料収入の内訳



## 5. 九州国際センター付近略図及び交通手段



☆最寄り駅：JR 八幡駅 徒歩約10分

☆新幹線：JR 小倉駅 JR乗換で八幡駅まで約15分

☆福岡空港：JR博多駅経由 約70分  
車（高速道路利用） 約60分

JICA

LIBRARY